

個別事項「プロセス指標」

自治体名 **下北圏域**

胃がん検診（胃部X線）

プロセス指標	許容値等	下北圏域	—	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30% 以上※	11.4%	—	10.7%	3.8%	平成30年度	40～74歳 男女計
要精検率	11.0% 以下	7.8%	—	8.7%	6.9%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70% 以上	65.4%	—	81.1%	81.0%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検未受診率	20% 以下	4.0%	—	7.7%	7.3%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検未把握率	10% 以下	30.5%	—	11.2%	11.8%	平成29年度	40～74歳 男女計
陽性反応適中度	1.0% 以上	2.9%	—	3.9%	5.2%	平成27～29年度	40～74歳 男女計
がん発見率	0.11% 以上	0.23%	—	0.34%	0.36%	平成27～29年度	40～74歳 男女計

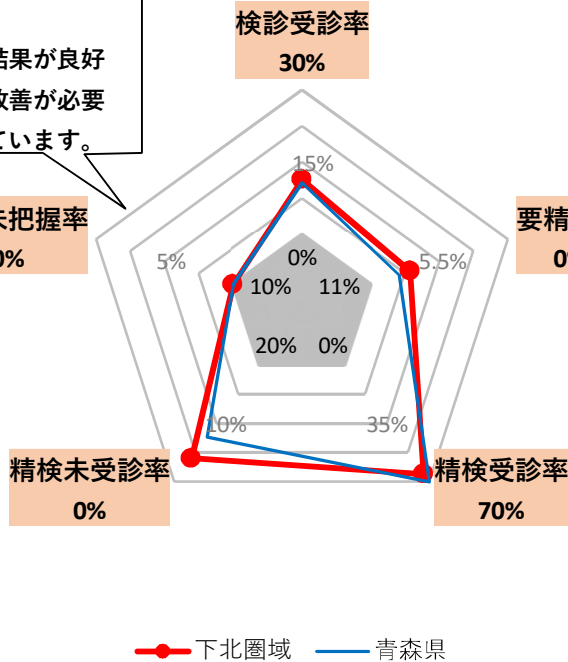
※プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

プロセス指標(抜粋) 結果

レーダーチャートが
大きい場合：結果が良好
小さい場合：改善が必要
を表しています。

精検未把握率
0%

※精密検査の未受診と未把握の分類の仕方は下記で確認できます。
→参考資料3 参照



要精検率 0% ※要精検率については、低すぎる（レーダーチャートが大きすぎる）時、問題がある場合があります。
→参考資料4 参照

【県コメント】

<精検受診率>
許容値以上となるよう、精検受診勧奨が適切に実施できているか、精検受診者の利便性が確保できているか等検討してください。併せて、精検未把握率が高くなっていないか確認してください。精検受診率が低いと陽性反応適中度とがん発見率は正確に評価できません。

<精検未受診率>
許容値以下となっていますが、精検未把握率が高い場合、見かけ上未受診率が低くなることに注意してください。

<精検未把握率>
許容値以下となるよう、「精検受診の有無及び精検結果」を確実に把握できる体制ができているか検討してください。

個別事項「プロセス指標」

自治体名 **下北圏域**

大腸がん検診

プロセス指標	許容値等	下北圏域	—	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※	15.1%	—	15.6%	9.9%	平成30年度	40～74歳 男女計
要精検率	7.0%以下	6.5%	—	6.5%	6.5%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70%以上	60.2%	—	79.6%	70.7%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検未受診率	20%以下	2.9%	—	9.8%	12.4%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検未把握率	10%以下	36.9%	—	10.7%	16.9%	平成29年度	40～74歳 男女計
陽性反応適中度	1.9%以上	2.9%	—	3.1%	3.1%	平成27～29年度	40～74歳 男女計
がん発見率	0.13%以上	0.18%	—	0.19%	0.20%	平成27～29年度	40～74歳 男女計

※プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

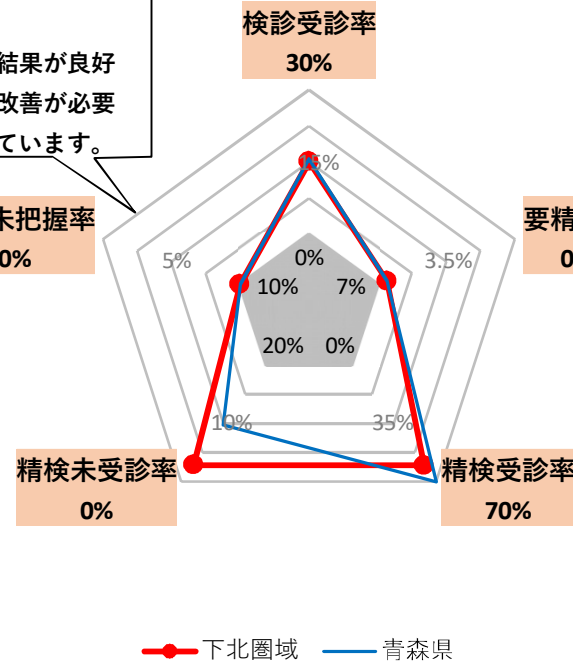
プロセス指標(抜粋) 結果

レーダーチャートが
大きい場合：結果が良好
小さい場合：改善が必要
を表しています。

精検未把握率
0%

要精検率 0% ※要精検率については、
低すぎる（レーダー
チャートが大きすぎる）
時も、問題がある場合が
あります。
→参考資料4 参照

※精密検査の未受診と
未把握の分類の仕方は
下記で確認できます。
→参考資料3 参照



【県コメント】

<検診受診率>
県平均以下となっています。対象者を全員把握できているか、対象者へのコール・リコールが実施できているか、受診者の利便性（休日夜間の検診、バス送迎等）が確保できているか等検討してください。

<精検受診率>
許容値以上となるよう、精検受診勧奨が適切に実施できているか、精検受診者の利便性が確保できているか等検討してください。併せて、精検未把握率が高くなっていないか確認してください。精検受診率が低いと陽性反応適中度とがん発見率は正確に評価できません。

<精検未受診率>
許容値以下となっていますが、精検未把握率が高い場合、見かけ上未受診率が低くなることに注意してください。

<精検未把握率>
許容値以下となるよう、「精検受診の有無及び精検結果」を確実に把握できる体制ができているか検討してください。

個別事項「プロセス指標」

自治体名 **下北圏域**

肺がん検診

プロセス指標	許容値等	下北圏域	—	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※	13.3%	—	12.3%	9.0%	平成30年度	40～74歳 男女計
要精検率	3.0%以下	0.6%	—	1.3%	1.7%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70%以上	93.5%	—	86.7%	83.5%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検未受診率	20%以下	0.0%	—	7.1%	6.0%	平成29年度	40～74歳 男女計
精検未把握率	10%以下	6.5%	—	6.2%	10.6%	平成29年度	40～74歳 男女計
陽性反応適中度	1.3%以上	25.8%	—	8.6%	6.7%	平成27～29年度	40～74歳 男女計
がん発見率	0.03%以上	0.16%	—	0.11%	0.12%	平成27～29年度	40～74歳 男女計

※プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

プロセス指標(抜粋) 結果

レーダーチャートが
大きい場合：結果が良好
小さい場合：改善が必要
を表しています。

精検未把握率
0%

要精検率 ※要精検率については、
低すぎる(レーダー
チャートが大きすぎる)
時も、問題がある場合が
あります。
→参考資料4 参照

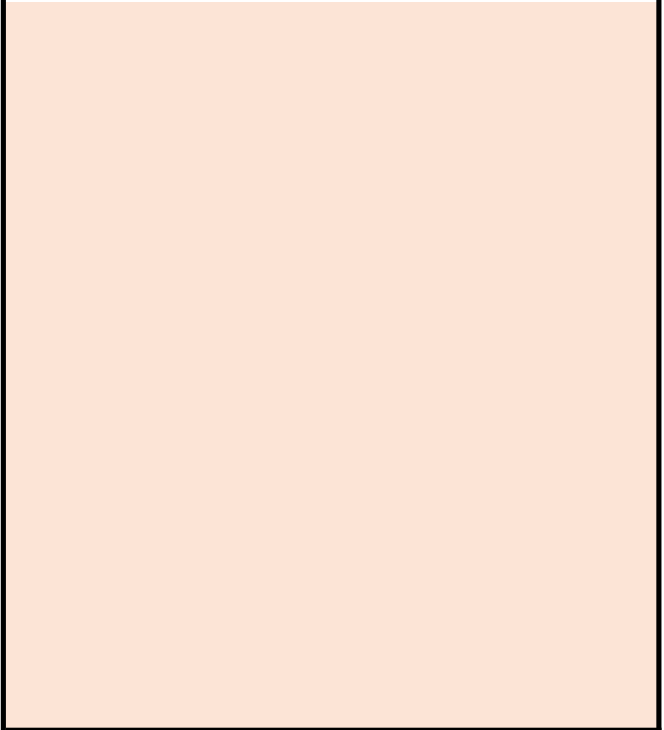
※精密検査の未受診と
未把握の分類の仕方は
下記で確認できます。
→参考資料3 参照

精検未受診率
0%

精検受診率
70%

● 下北圏域 ● 青森県

【県コメント】



個別事項「プロセス指標」

自治体名 **下北圏域**

乳がん検診

プロセス指標	許容値等	下北圏域	(うち前年度未受診)	(うち2年連続受診)	—	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※	23.5%	23.38%	0.17%	—	20.5%	16.9%	平成29～30年度	40～74歳 女性
要精検率	11.0%以下	6.1%			—	6.1%	6.3%	平成29年度	40～74歳 女性
精検受診率	80%以上	93.0%			—	93.7%	88.8%	平成29年度	40～74歳 女性
精検未受診率	10%以下	2.1%			—	3.6%	3.0%	平成29年度	40～74歳 女性
精検未把握率	10%以下	4.9%			—	2.8%	8.2%	平成29年度	40～74歳 女性
陽性反応適中度	2.5%以上	14.7%			—	17.4%	15.3%	平成27～29年度	40～74歳 女性
がん発見率	0.23%以上	0.90%			—	1.07%	0.96%	平成27～29年度	40～74歳 女性

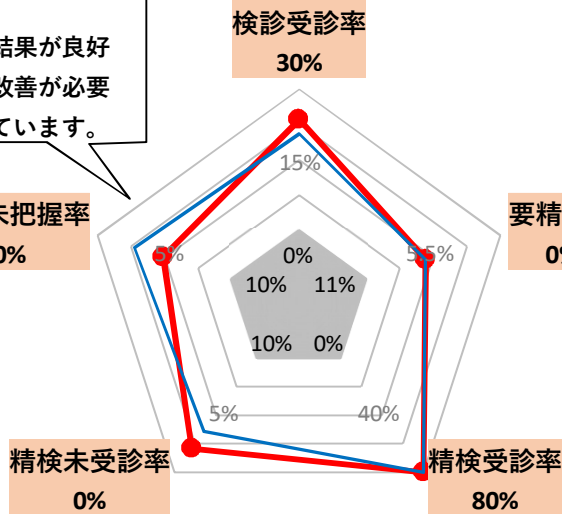
※プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

プロセス指標(抜粋) 結果

レーダーチャートが
 大きい場合：結果が良好
 小さい場合：改善が必要
 を表しています。

精検未把握率
0%

※精密検査の未受診と未把握の分類の仕方は下記で確認できます。
 →参考資料3 参照



要精検率 ※要精検率については、低すぎる(レーダーチャートが大きすぎる)時も、問題がある場合があります。
 →参考資料4 参照

● 下北圏域 ● 青森県

【県コメント】

<検診受診率(受診間隔)>
 受診率は高いほうが望ましい指標ですが、受診間隔(2年に1回)は遵守する必要があります。

個別事項「プロセス指標」

自治体名 **下北圏域**

子宮頸がん検診

プロセス指標	許容値等	下北圏域	(うち前年度 未受診)	(うち2年 連続受診)	—	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※1	20.1%	13.29%	6.85%	—	18.4%	15.7%	平成29～30年度	20～74歳 女性
要精検率	1.4%以下※2	1.4%			—	2.4%	2.1%	平成29年度	20～74歳 女性
精検受診率	70%以上	88.2%			—	87.4%	75.2%	平成29年度	20～74歳 女性
精検未受診率	20%以下	2.0%			—	6.0%	6.7%	平成29年度	20～74歳 女性
精検未把握率	10%以下	9.8%			—	6.5%	18.1%	平成29年度	20～74歳 女性
陽性反応適中度	4.0%以上※3	0.0%			—	1.4%	1.7%	平成27～29年度	20～74歳 女性
がん発見率	0.05%以上※3	0.00%			—	0.03%	0.04%	平成27～29年度	20～74歳 女性

※1 プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

※2 全国的に近年増加傾向にあり、今後の国の検討状況次第では許容値が見直される可能性があります。

※3 H26以降のがんの定義の変更により以前と比較し減少しているため、今後許容値が見直される可能性があります。

【県コメント】

<検診受診率(受診間隔)>
受診率は高いほうが望ましい指標ですが、受診間隔(2年に1回)は遵守する必要があります。

<要精検率>
許容値以下となるよう、有症状者が検診を受けていないか、有病率の高い年齢層・初回受診者に偏っていないか検討するとともに、各検診機関の判定基準が適切か確認する必要があります。

プロセス指標(抜粋) 結果

レーダーチャートが
大きい場合：結果が良好
小さい場合：改善が必要
を表しています。

精検未把握率
0%

検診受診率
30%

要精検率
0% ※要精検率については、
低すぎる(レーダー
チャートが大きすぎる)
時も、問題がある場合が
あります。
→参考資料4 参照

精検未受診率
0%

精検受診率
70%

● 下北圏域 ● 青森県

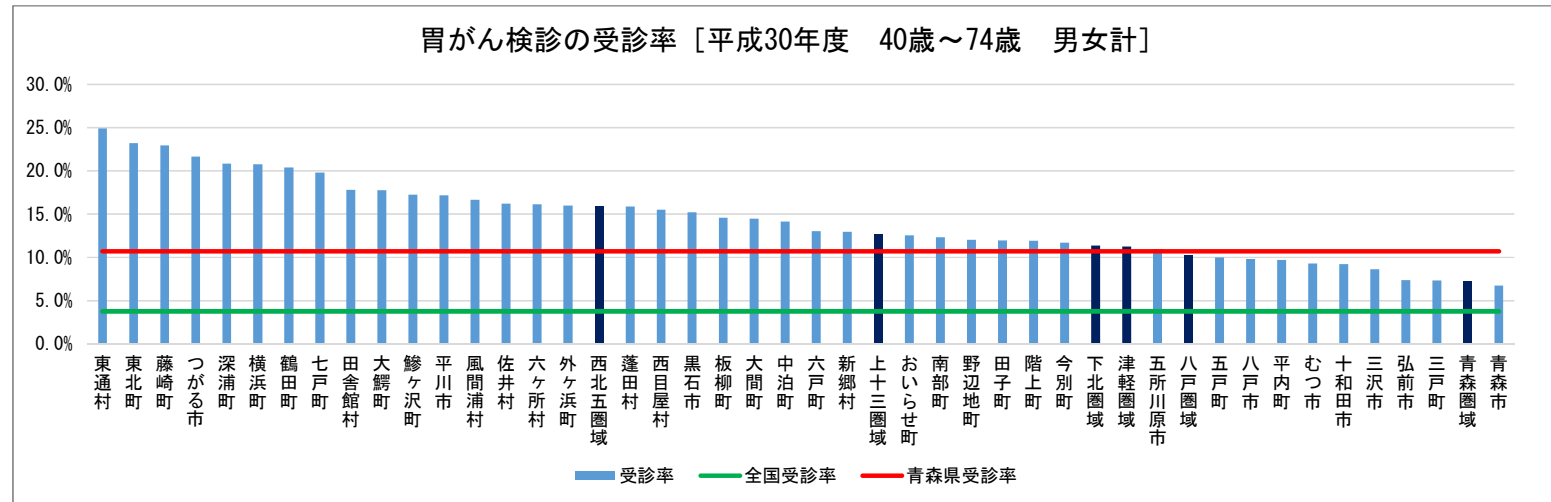
※精密検査の未受診と未把握の分類の仕方は下記で確認できます。
→参考資料3 参照

個別事項「プロセス指標」

平成30年度 胃がん検診（胃部X線）プロセス指標－受診率－

自治体名 下北圏域

1. 胃がん検診（胃部X線）の受診率



指標の意義・一般的な対策

- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

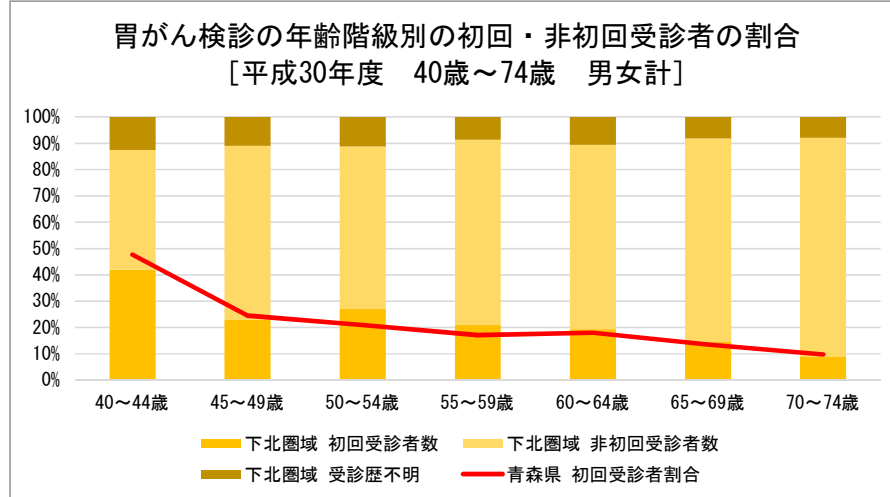
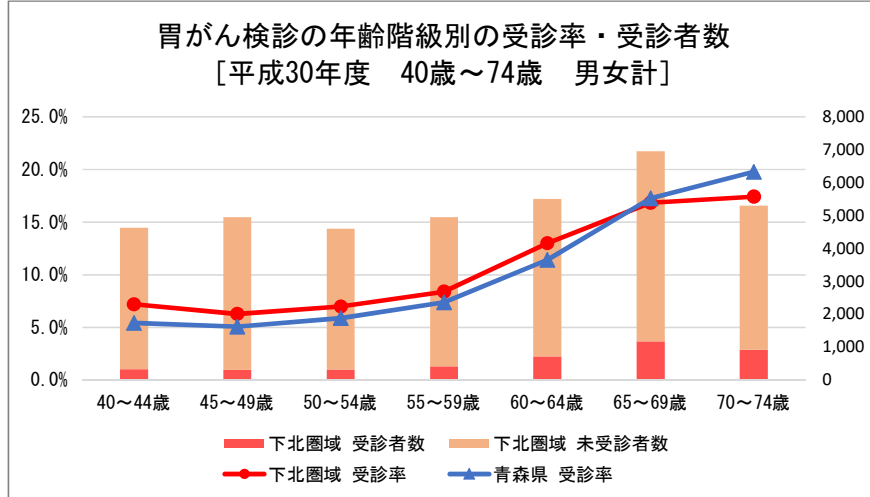
<胃がん検診（胃部X線）の受診率 [平成30年度 40歳～74歳 男女計] >

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	3.8%	10.7%	7.2%	11.3%	10.3%	15.9%	12.7%	11.4%	6.8%	7.4%	9.8%	15.2%	10.9%	9.2%	8.6%	9.3%	21.6%	17.2%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	40位	38位	33位	19位	31位	36位	37位	35位	4位	12位
受診者数	2,258,188	69,140	11,244	15,838	16,597	10,460	10,803	4,198	9,774	6,249	11,282	2,559	3,045	2,902	1,567	2,698	3,523	2,655
対象者数	60,038,975	646,635	156,341	140,727	161,683	65,669	85,300	36,915	144,463	84,644	114,777	16,841	27,830	31,399	18,123	29,037	16,284	15,457
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	9.7%	11.7%	15.9%	16.0%	17.2%	20.8%	15.5%	23.0%	17.8%	17.8%	14.6%	20.4%	14.1%	12.1%	19.8%	13.0%	20.8%	23.2%
順位	34位	30位	17位	16位	11位	5位	18位	3位	10位	9位	20位	7位	22位	27位	8位	23位	6位	2位
受診者数	567	159	231	513	879	890	98	1,691	884	688	1,014	1,305	818	824	1,557	692	462	2,025
対象者数	5,861	1,357	1,455	3,205	5,097	4,271	632	7,368	4,973	3,862	6,950	6,396	5,791	6,838	7,871	5,314	2,226	8,728
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	16.1%	12.6%	14.5%	24.9%	16.7%	16.2%	7.3%	10.0%	11.9%	12.3%	11.9%	12.9%						
順位	15位	25位	21位	1位	13位	14位	39位	32位	28位	26位	29位	24位						
受診者数	774	1,545	393	759	174	174	377	888	333	1,149	865	158						
対象者数	4,801	12,301	2,713	3,046	1,045	1,074	5,151	8,871	2,787	9,328	7,247	1,221						

[受診率の計算方法について]
受診者数÷対象者数=受診率
※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。

(出典：H30年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数（分母）は対象年齢の全住民で、受診者数（分子）は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

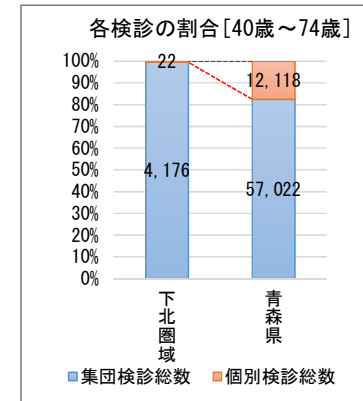
2. 胃がん検診（胃部X線）の受診者の状況



<胃がん検診（胃部X線）の年齢階級別の受診者数・受診率 [平成30年度 男女計]>

区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
下北圏域 対象者数	4,636	4,947	4,602	4,951	5,515	6,961	5,303			36,915	31,612	36,915
下北圏域 受診者数	334	311	322	416	718	1,173	924	670	411	5,279	3,274	4,198
下北圏域 初回受診者数	140	71	87	87	139	170	84	58	34	870	694	778
下北圏域 非初回受診者数	152	206	199	293	503	907	767	575	344	3,946	2,260	3,027
下北圏域 受診歴不明	42	34	36	36	76	96	73	37	33	463	320	393
下北圏域 受診率	7.2%	6.3%	7.0%	8.4%	13.0%	16.9%	17.4%				10.4%	11.4%
青森県 対象者数	83,617	88,576	84,989	89,456	96,162	112,667	91,168			646,635	555,467	646,635
青森県 受診者数	4,530	4,496	5,012	6,619	10,983	19,464	18,036	12,766	8,217	90,123	51,104	69,140
青森県 初回受診者数	2,161	1,101	1,052	1,131	1,983	2,636	1,764	1,099	747	13,674	10,064	11,828
青森県 非初回受診者数	2,104	3,142	3,660	5,189	8,499	16,003	15,581	11,199	7,130	72,507	38,597	54,178
青森県 受診歴不明	265	253	300	299	501	825	691	468	340	3,942	2,443	3,134
青森県 受診率	5.4%	5.1%	5.9%	7.4%	11.4%	17.3%	19.8%				9.2%	10.7%

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者
 ※非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者



※受診者数はH30年度の受診者数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

個別事項「プロセス指標」 (別紙4とは対象年度が異なる点に留意)

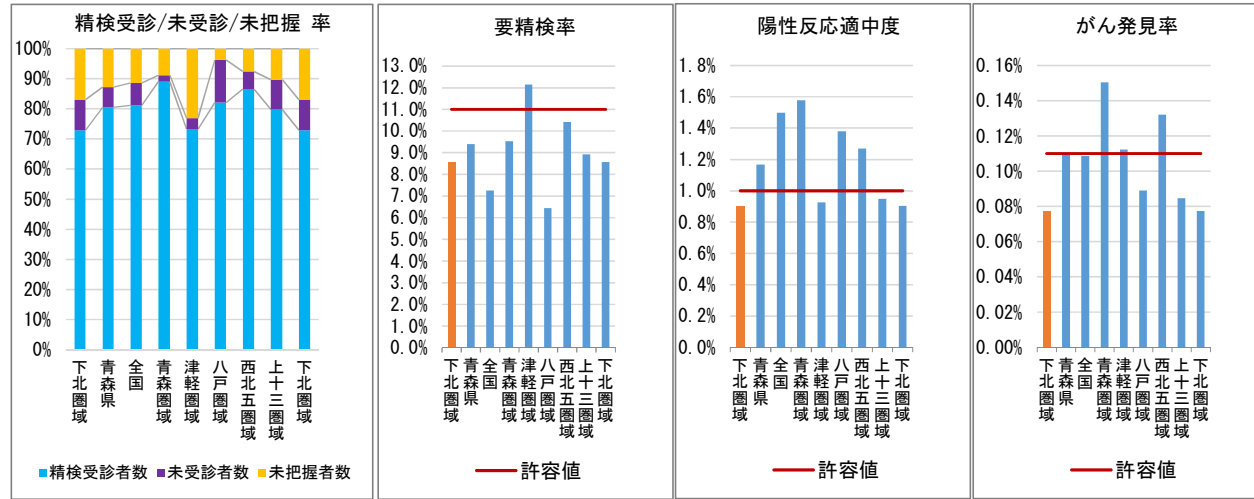
別紙4_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和3年2月1日付け青が生第365号通知]

平成27～29年度 胃がん検診(胃部X線検査)プロセス指標-受診率を除く-

自治体名	下北圏域
------	------

1. 胃がん検診のプロセス指標(受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<胃がん検診のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計]>

区分	下北圏域	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	12,920	227,709	8,132,382	37,187	53,410	53,945	34,812	35,435	12,920	—
要精検者数	1,107	21,405	590,406	3,546	6,483	3,479	3,626	3,164	1,107	—
未把握者数	188	2,732	67,017	313	1,497	131	276	327	188	—
未受診者数	112	1,441	44,025	75	236	494	211	313	112	—
精検受診者数	807	17,232	479,364	3,158	4,750	2,854	3,139	2,524	807	—
がんであった者	10	250	8,842	56	60	48	46	30	10	—
要精検率	8.6%	9.4%	7.3%	9.5%	12.1%	6.4%	10.4%	8.9%	8.6%	11.0% 以下
精検受診率	72.9%	80.5%	81.2%	89.1%	73.3%	82.0%	86.6%	79.8%	72.9%	—
未受診率	10.1%	6.7%	7.5%	2.1%	3.6%	14.2%	5.8%	9.9%	10.1%	—
未把握率	17.0%	12.8%	11.4%	8.8%	23.1%	3.8%	7.6%	10.3%	17.0%	—
陽性反応適中度	0.9%	1.2%	1.5%	1.6%	0.9%	1.4%	1.3%	0.9%	0.9%	1.0% 以上
がん発見率	0.08%	0.11%	0.11%	0.15%	0.11%	0.09%	0.13%	0.08%	0.08%	0.11% 以上

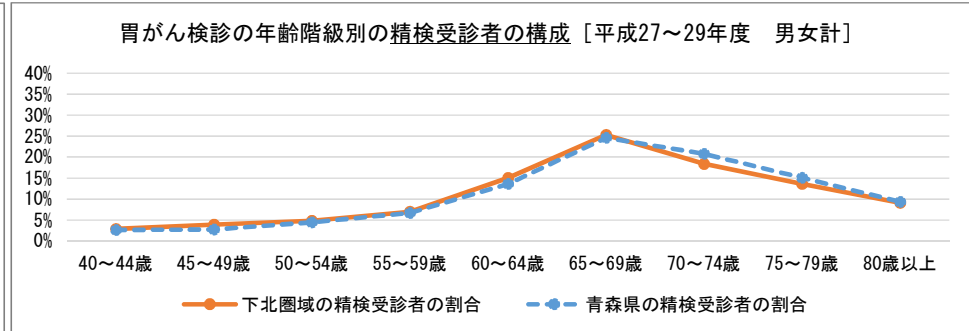
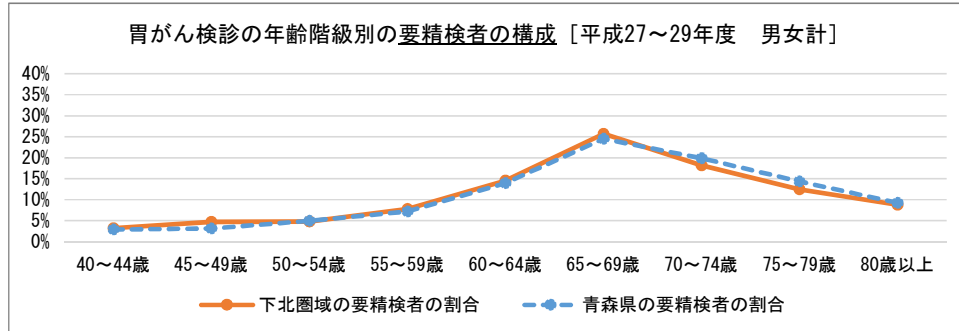
指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H28～H30年度地域保健・健康増進事業報告)

自治体名 下北圏域

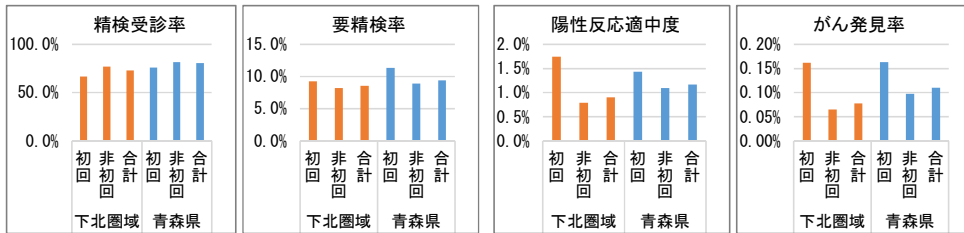
2. 胃がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<胃がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成27～29年度 男女計] >

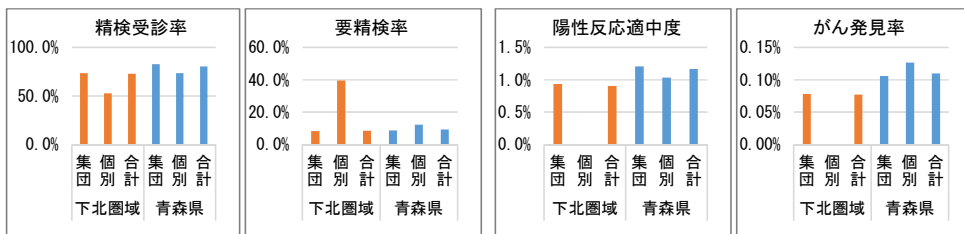
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～74歳
下北圏域 要精検者数	45	66	67	109	204	361	255	175	123	1,405	1,107
下北圏域 精検受診者数	30	41	50	73	157	264	192	142	95	1,044	807
下北圏域 精検受診率	66.7%	62.1%	74.6%	67.0%	77.0%	73.1%	75.3%	81.1%	77.2%	74.3%	72.9%
青森県 要精検者数	805	880	1,377	2,017	3,901	6,865	5,560	4,019	2,587	28,011	21,405
青森県 精検受診者数	598	633	1,020	1,528	3,110	5,606	4,737	3,440	2,121	22,793	17,232
青森県 精検受診率	74.3%	71.9%	74.1%	75.8%	79.7%	81.7%	85.2%	85.6%	82.0%	81.4%	80.5%

<胃がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 初回	2,468	229	153	4	9.3%	66.8%	1.7%	0.16%
下北圏域 非初回	9,240	758	584	6	8.2%	77.0%	0.8%	0.06%
下北圏域 合計	12,920	1,107	807	10	8.6%	72.9%	0.9%	0.08%
青森県 初回	42,265	4,802	3,651	69	11.4%	76.0%	1.4%	0.16%
青森県 非初回	175,333	15,642	12,782	171	8.9%	81.7%	1.1%	0.10%
青森県 合計	227,709	21,405	17,232	250	9.4%	80.5%	1.2%	0.11%

<胃がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計] >



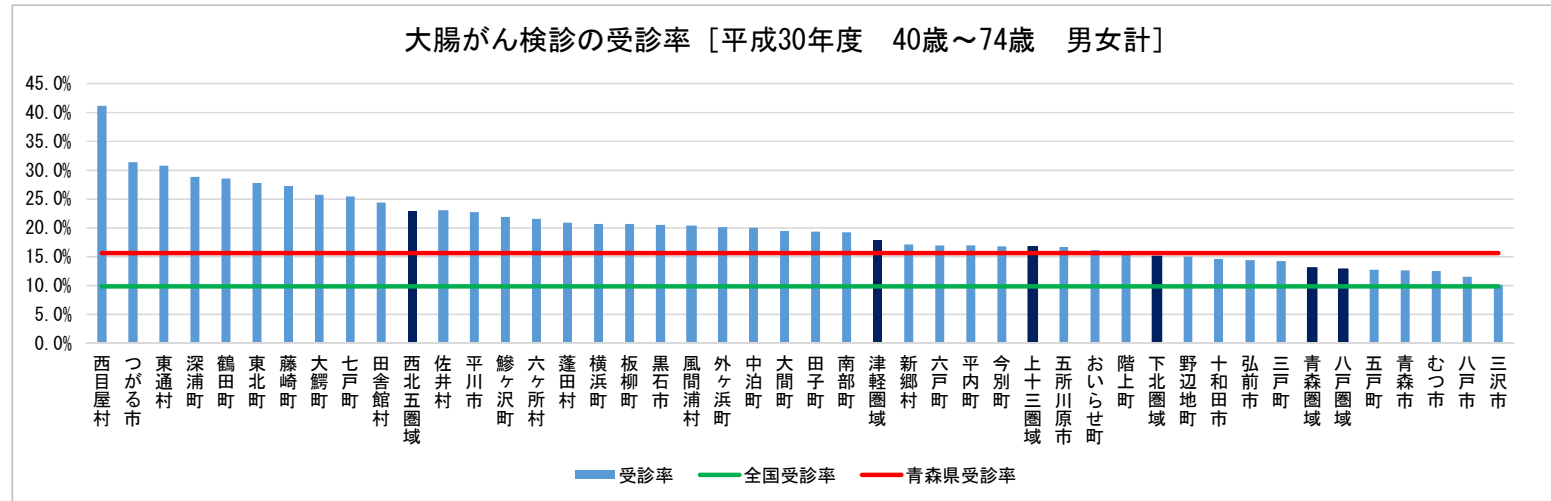
区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 集団検診	12,824	1,069	787	10	8.3%	73.6%	0.9%	0.08%
下北圏域 個別検診	96	38	20	0	39.6%	52.6%	0.0%	0.00%
下北圏域 合計	12,920	1,107	807	10	8.6%	72.9%	0.9%	0.08%
青森県 集団検診	185,836	16,287	13,473	197	8.8%	82.7%	1.2%	0.11%
青森県 個別検診	41,873	5,118	3,759	53	12.2%	73.4%	1.0%	0.13%
青森県 合計	227,709	21,405	17,232	250	9.4%	80.5%	1.2%	0.11%

個別事項「プロセス指標」

平成30年度 大腸がん検診プロセス指標 - 受診率 -

自治体名 下北圏域

1. 大腸がん検診の受診率



指標の意義・一般的な対策

- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

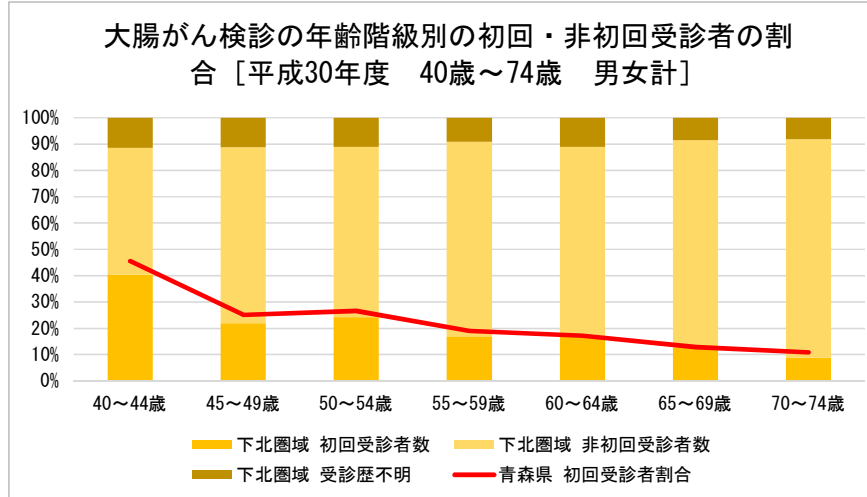
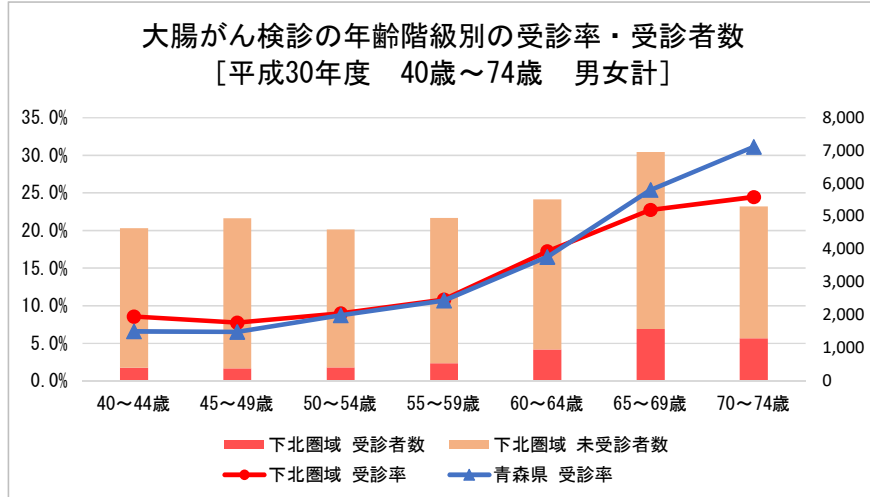
<大腸がん検診の受診率 [平成30年度 40歳～74歳 男女計] >

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	9.9%	15.6%	13.1%	17.8%	12.8%	23.0%	16.7%	15.1%	12.6%	14.4%	11.5%	20.5%	16.7%	14.6%	10.1%	12.5%	31.3%	22.7%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	37位	34位	39位	18位	29位	33位	40位	38位	2位	12位
受診者数	5,908,550	101,125	20,414	25,070	20,726	15,087	14,269	5,559	18,244	12,182	13,229	3,456	4,652	4,587	1,839	3,636	5,104	3,512
対象者数	59,963,886	646,635	156,341	140,727	161,683	65,669	85,300	36,915	144,463	84,644	114,777	16,841	27,830	31,399	18,123	29,037	16,284	15,457
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	16.9%	16.8%	20.9%	20.1%	21.9%	28.8%	41.1%	27.2%	25.7%	24.4%	20.6%	28.5%	20.0%	15.0%	25.4%	17.0%	20.7%	27.8%
順位	27位	28位	15位	20位	13位	4位	1位	7位	8位	10位	17位	5位	21位	32位	9位	26位	16位	6位
受診者数	993	228	304	645	1,116	1,231	260	2,005	1,278	942	1,435	1,824	1,160	1,026	1,999	901	460	2,423
対象者数	5,861	1,357	1,455	3,205	5,097	4,271	632	7,368	4,973	3,862	6,950	6,396	5,791	6,838	7,871	5,314	2,226	8,728
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	21.5%	16.1%	19.5%	30.8%	20.3%	22.9%	14.2%	12.7%	19.3%	19.2%	15.3%	17.1%						
順位	14位	30位	22位	3位	19位	11位	35位	36位	23位	24位	31位	25位						
受診者数	1,034	1,983	528	937	212	246	732	1,130	539	1,794	1,110	209						
対象者数	4,801	12,301	2,713	3,046	1,045	1,074	5,151	8,871	2,787	9,328	7,247	1,221						

[受診率の計算方法について]
受診者数÷対象者数=受診率
※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。

(出典：H30年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数(分母)は対象年齢の全住民で、受診者数(分子)は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

2. 大腸がん検診の受診者の状況



<大腸がん検診の年齢階級別の受診者数・受診率 [平成30年度 男女計] >

区分		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
下北圏域	対象者数	4,636	4,947	4,602	4,951	5,515	6,961	5,303			36,915	31,612	36,915
下北圏域	受診者数	396	383	413	536	951	1,583	1,297	925	666	7,150	4,262	5,559
下北圏域	初回受診者数	160	84	100	91	161	202	113	71	75	1,057	798	911
下北圏域	非初回受診者数	191	256	267	396	684	1,247	1,079	798	537	5,455	3,041	4,120
下北圏域	受診歴不明	45	43	46	49	106	134	105	56	54	638	423	528
下北圏域	受診率	8.5%	7.7%	9.0%	10.8%	17.2%	22.7%	24.5%				13.5%	15.1%
青森県	対象者数	83,617	88,576	84,989	89,456	96,162	112,667	91,168			646,635	555,467	646,635
青森県	受診者数	5,516	5,783	7,401	9,567	15,851	28,621	28,386	21,173	17,111	139,409	72,739	101,125
青森県	初回受診者数	2,512	1,451	1,972	1,820	2,715	3,671	3,080	1,745	1,798	20,764	14,141	17,221
青森県	非初回受診者数	2,710	4,041	5,084	7,382	12,513	23,922	24,408	18,824	14,783	113,667	55,652	80,060
青森県	受診歴不明	294	291	345	365	623	1,028	898	604	530	4,978	2,946	3,844
青森県	受診率	6.6%	6.5%	8.7%	10.7%	16.5%	25.4%	31.1%				13.1%	15.6%

※受診者数はH30年度の受診者数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

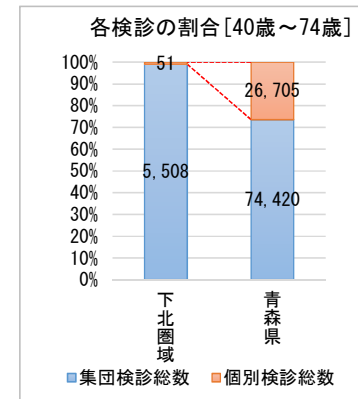
※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

※50歳代は大腸がん検診モデル事業の影響により県平均の受診率や初回受診者割合が通常よりも高い。

(出典：H30年度地域保健・健康増進事業報告)

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者

※非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者



個別事項「プロセス指標」 (別紙5とは対象年度が異なる点に留意)

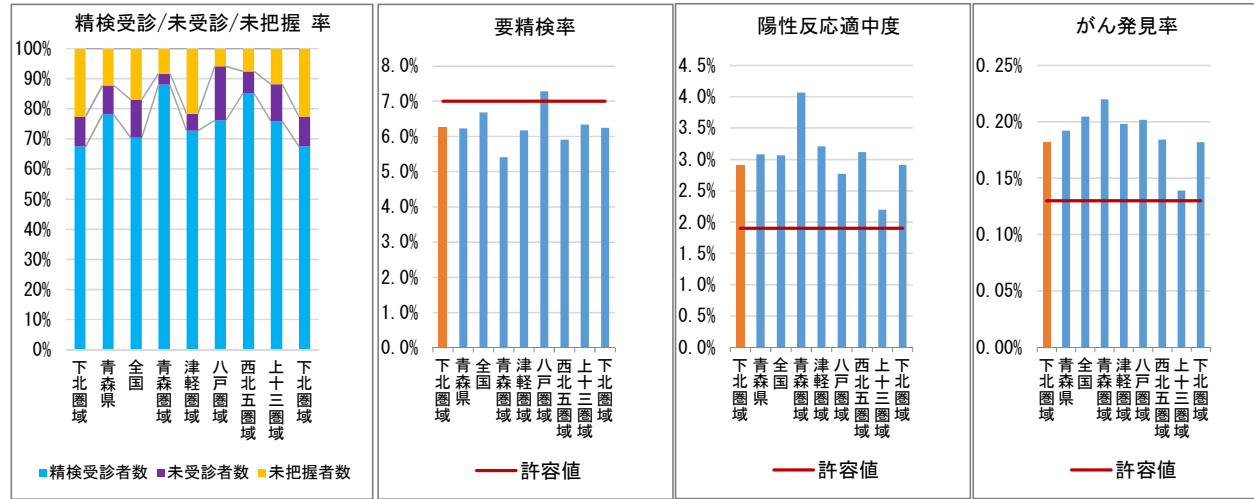
別紙5_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和3年2月1日付け青が生第365号通知]

平成27～29年度 大腸がん検診プロセス指標 - 受診率を除く -

自治体名	下北圏域
------	------

1. 大腸がん検診のプロセス指標 (受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<大腸がん検診のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計]>

区分	下北圏域	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	16,486	321,716	19,070,932	65,916	80,770	66,442	46,127	45,975	16,486	—
要精検者数	1,030	20,061	1,274,865	3,565	4,989	4,838	2,726	2,913	1,030	—
未把握者数	232	2,443	215,606	296	1,079	285	206	345	232	—
未受診者数	103	1,939	161,089	131	283	867	200	355	103	—
精検受診者数	695	15,679	898,170	3,138	3,627	3,686	2,320	2,213	695	—
がんであった者	30	618	39,054	145	160	134	85	64	30	—
要精検率	6.2%	6.2%	6.7%	5.4%	6.2%	7.3%	5.9%	6.3%	6.2%	7.0% 以下
精検受診率	67.5%	78.2%	70.5%	88.0%	72.7%	76.2%	85.1%	76.0%	67.5%	—
未受診率	10.0%	9.7%	12.6%	3.7%	5.7%	17.9%	7.3%	12.2%	10.0%	—
未把握率	22.5%	12.2%	16.9%	8.3%	21.6%	5.9%	7.6%	11.8%	22.5%	—
陽性反応適中度	2.9%	3.1%	3.1%	4.1%	3.2%	2.8%	3.1%	2.2%	2.9%	1.9% 以上
がん発見率	0.18%	0.19%	0.20%	0.22%	0.20%	0.20%	0.18%	0.14%	0.18%	0.13% 以上

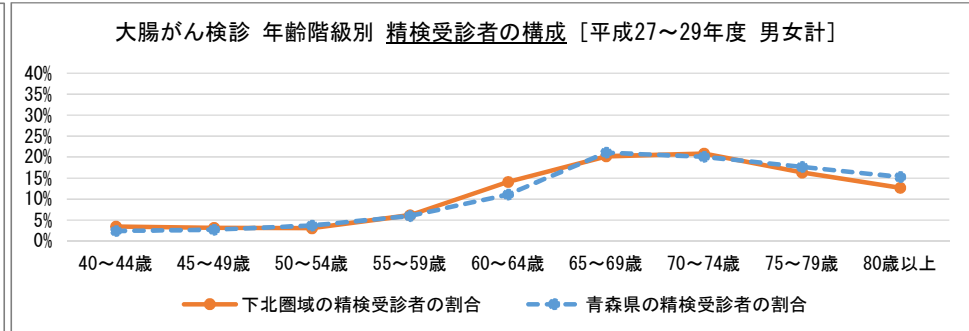
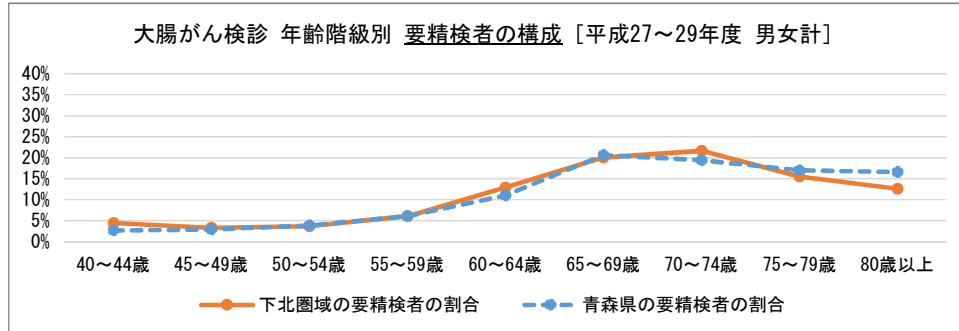
指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H28～H30年度地域保健・健康増進事業報告)

自治体名 下北圏域

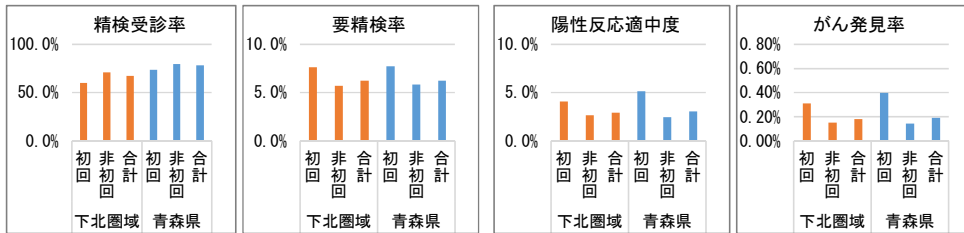
2. 大腸がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<大腸がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成27～29年度 男女計] >

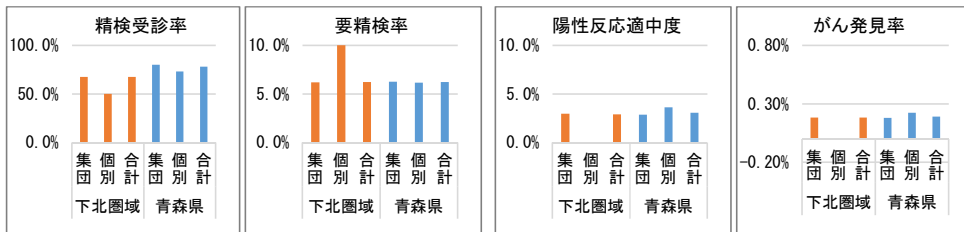
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～74歳
下北圏域 要精検者数	63	47	52	87	184	287	310	222	180	1,432	1,030
下北圏域 精検受診者数	34	31	30	60	138	198	204	160	124	979	695
下北圏域 精検受診率	54.0%	66.0%	57.7%	69.0%	75.0%	69.0%	65.8%	72.1%	68.9%	68.4%	67.5%
青森県 要精検者数	797	874	1,152	1,826	3,322	6,228	5,862	5,128	5,014	30,203	20,061
青森県 精検受診者数	560	635	864	1,404	2,594	4,923	4,699	4,126	3,565	23,370	15,679
青森県 精検受診率	70.3%	72.7%	75.0%	76.9%	78.1%	79.0%	80.2%	80.5%	71.1%	77.4%	78.2%

<大腸がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 初回	3,210	245	147	10	7.6%	60.0%	4.1%	0.31%
下北圏域 非初回	11,828	674	478	18	5.7%	70.9%	2.7%	0.15%
下北圏域 合計	16,486	1,030	695	30	6.2%	67.5%	2.9%	0.18%
青森県 初回	63,320	4,911	3,619	252	7.8%	73.7%	5.1%	0.40%
青森県 非初回	246,867	14,451	11,505	354	5.9%	79.6%	2.4%	0.14%
青森県 合計	321,716	20,061	15,679	618	6.2%	78.2%	3.1%	0.19%

<大腸がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 集団検診	16,351	1,016	688	30	6.2%	67.7%	3.0%	0.18%
下北圏域 個別検診	135	14	7	0	10.4%	50.0%	0.0%	0.00%
下北圏域 合計	16,486	1,030	695	30	6.2%	67.5%	2.9%	0.18%
青森県 集団検診	232,842	14,582	11,667	419	6.3%	80.0%	2.9%	0.18%
青森県 個別検診	88,874	5,479	4,012	199	6.2%	73.2%	3.6%	0.22%
青森県 合計	321,716	20,061	15,679	618	6.2%	78.2%	3.1%	0.19%

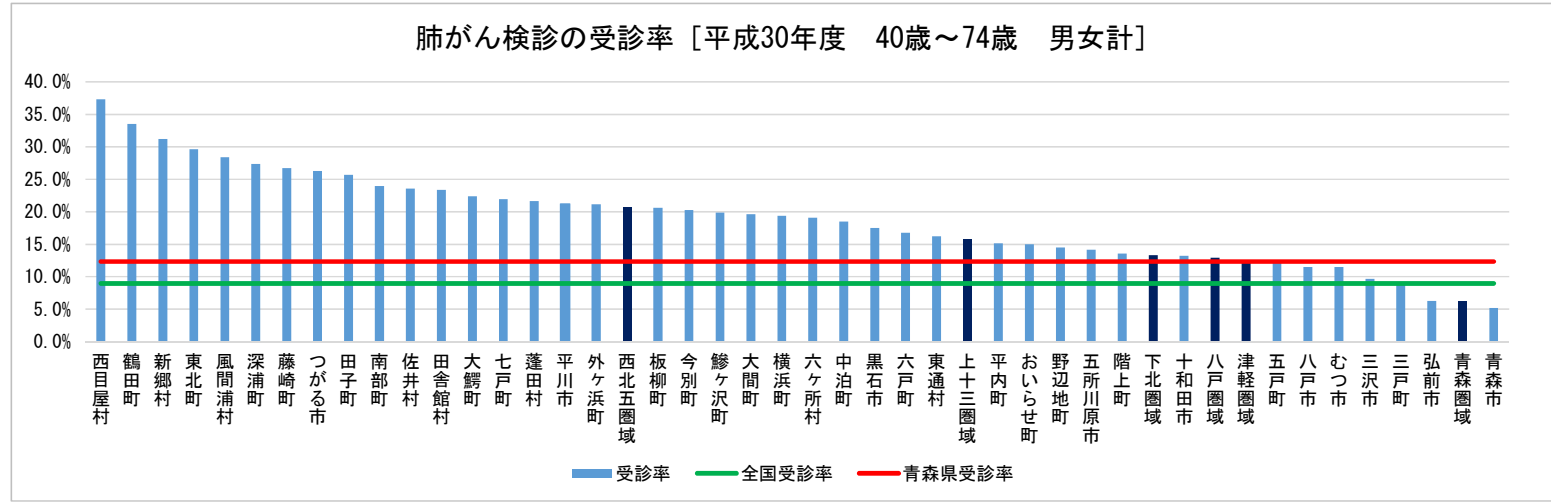
個別事項「プロセス指標」

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和3年2月1日付け青が生第365号通知]

平成30年度 肺がん検診プロセス指標－受診率－

自治体名	下北圏域
------	------

1. 肺がん検診の受診率



指標の意義・一般的な対策

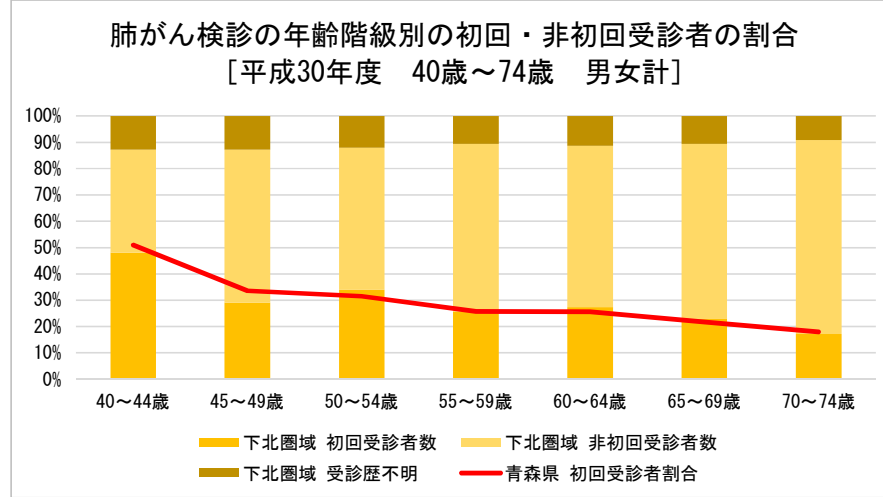
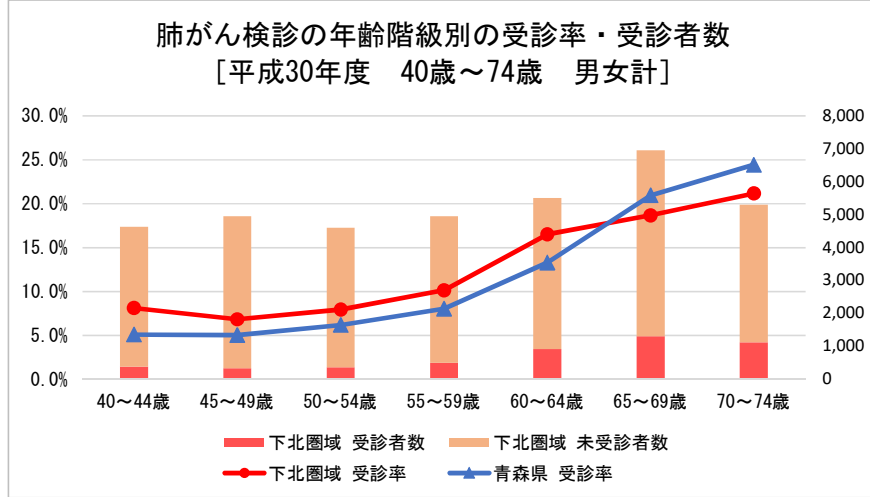
- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別/検診機関別/検診歴別(初回・非初回別)の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制(キャパシティ、利便性等)の改善について検討が必要です。

<肺がん検診の受診率 [平成30年度 40歳～74歳 男女計] >

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	9.0%	12.3%	6.2%	12.2%	12.9%	20.7%	15.8%	13.3%	5.2%	6.3%	11.5%	17.5%	14.1%	13.3%	9.7%	11.5%	26.3%	21.2%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	40位	39位	35位	25位	31位	33位	37位	36位	8位	16位
受診者数	5,375,469	79,756	9,685	17,186	20,894	13,612	13,465	4,914	7,529	5,313	13,209	2,948	3,934	4,163	1,754	3,337	4,283	3,275
対象者数	59,966,144	646,635	156,341	140,727	161,683	65,669	85,300	36,915	144,463	84,644	114,777	16,841	27,830	31,399	18,123	29,037	16,284	15,457
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	15.2%	20.3%	21.6%	21.2%	19.9%	27.3%	37.3%	26.7%	22.4%	23.4%	20.6%	33.5%	18.5%	14.5%	22.0%	16.8%	19.4%	29.6%
順位	28位	19位	15位	17位	20位	6位	1位	7位	13位	12位	18位	2位	24位	30位	14位	26位	22位	4位
受診者数	888	275	315	678	1,014	1,168	236	1,967	1,113	903	1,431	2,143	1,070	992	1,729	892	432	2,587
対象者数	5,861	1,357	1,455	3,205	5,097	4,271	632	7,368	4,973	3,862	6,950	6,396	5,791	6,838	7,871	5,314	2,226	8,728
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	19.1%	15.0%	19.6%	16.3%	28.4%	23.6%	8.8%	12.1%	25.7%	24.0%	13.6%	31.2%	[受診率の計算方法について]					
順位	23位	29位	21位	27位	5位	11位	38位	34位	9位	10位	32位	3位	受診者数÷対象者数=受診率					
受診者数	916	1,842	532	495	297	253	452	1,076	716	2,236	982	381	※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算					
対象者数	4,801	12,301	2,713	3,046	1,045	1,074	5,151	8,871	2,787	9,328	7,247	1,221	しているため他の統計の受診率と異なる。					

(出典：H30年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数(分母)は対象年齢の全住民で、受診者数(分子)は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

2. 肺がん検診の受診者の状況



<肺がん検診の年齢階級別の受診者数・受診率 [平成30年度 男女計]>

区分		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
下北圏域	対象者数	4,636	4,947	4,602	4,951	5,515	6,961	5,303			36,915	31,612	36,915
下北圏域	受診者数	376	337	365	502	911	1,300	1,123	810	519	6,243	3,791	4,914
下北圏域	初回受診者数	181	98	124	128	249	297	193	146	93	1,509	1,077	1,270
下北圏域	非初回受診者数	147	196	197	321	559	865	827	615	373	4,100	2,285	3,112
下北圏域	受診歴不明	48	43	44	53	103	138	103	49	53	634	429	532
下北圏域	受診率	8.1%	6.8%	7.9%	10.1%	16.5%	18.7%	21.2%				12.0%	13.3%
青森県	対象者数	83,617	88,576	84,989	89,456	96,162	112,667	91,168			646,635	555,467	646,635
青森県	受診者数	4,250	4,448	5,235	7,173	12,759	23,606	22,285	17,859	11,800	109,415	57,471	79,756
青森県	初回受診者数	2,166	1,493	1,648	1,845	3,273	5,119	4,000	3,504	2,660	25,708	15,544	19,544
青森県	非初回受診者数	1,791	2,670	3,273	4,997	8,892	17,346	17,298	13,628	8,327	78,222	38,969	56,267
青森県	受診歴不明	293	285	314	331	594	1,141	987	727	813	5,485	2,958	3,945
青森県	受診率	5.1%	5.0%	6.2%	8.0%	13.3%	21.0%	24.4%				10.3%	12.3%

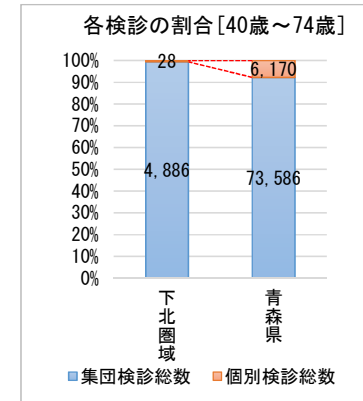
※受診者数はH30年度の受診者数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

※初回受診者＝前年に受診歴がない者

※非初回受診者＝前年に受診歴がある者



個別事項「プロセス指標」 (別紙6とは対象年度が異なる点に留意)

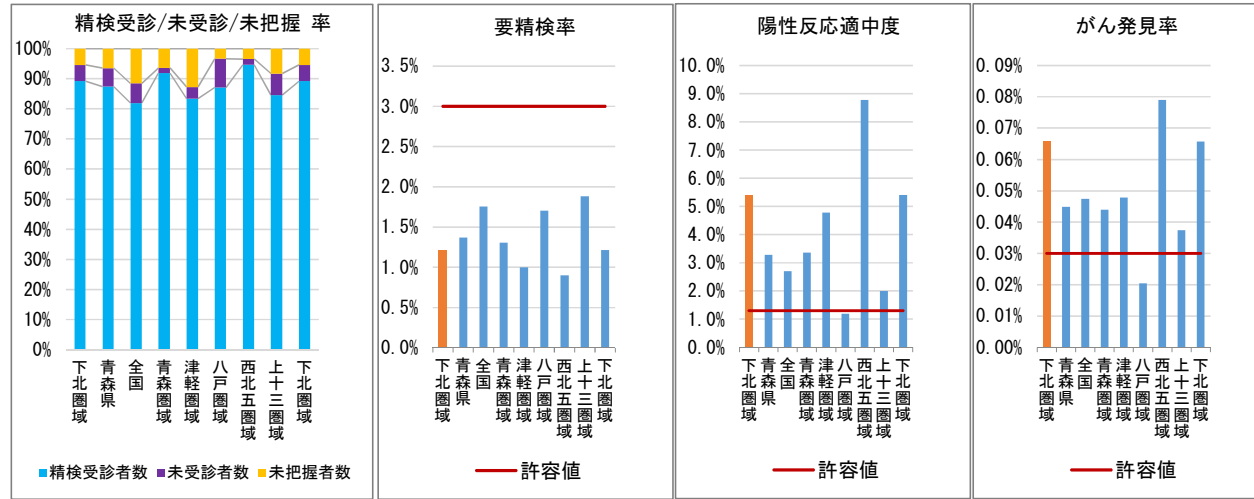
別紙6_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和3年2月1日付け青が生第365号通知]

平成27～29年度 肺がん検診プロセス指標 - 受診率を除く -

自治体名	下北圏域
------	------

1. 肺がん検診のプロセス指標 (受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<肺がん検診のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計]>

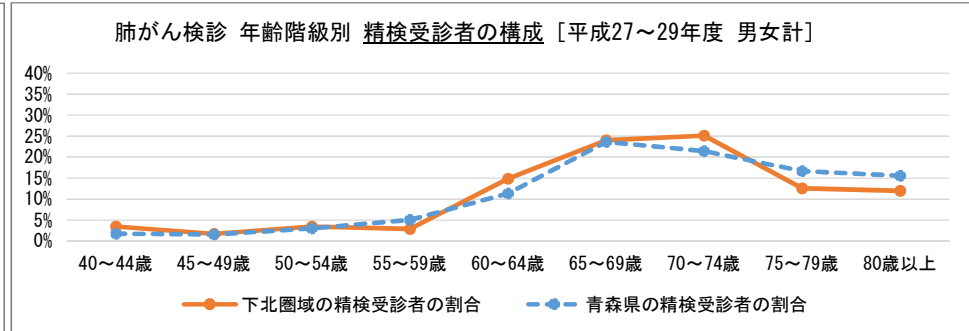
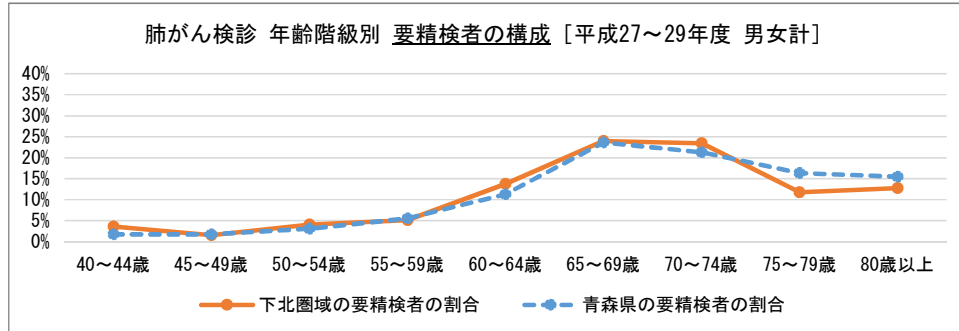
区分	下北圏域	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	12,174	202,771	13,362,743	22,729	43,870	53,850	35,432	34,716	12,174	—
要精検者数	148	2,775	234,485	297	439	918	319	654	148	—
未把握者数	8	179	27,141	19	56	31	11	54	8	—
未受診者数	8	171	15,195	5	17	88	6	47	8	—
精検受診者数	132	2,425	192,149	273	366	799	302	553	132	—
がんであった者	8	91	6,339	10	21	11	28	13	8	—
要精検率	1.2%	1.4%	1.8%	1.3%	1.0%	1.7%	0.9%	1.9%	1.2%	3.0% 以下
精検受診率	89.2%	87.4%	81.9%	91.9%	83.4%	87.0%	94.7%	84.6%	89.2%	—
未受診率	5.4%	6.2%	6.5%	1.7%	3.9%	9.6%	1.9%	7.2%	5.4%	—
未把握率	5.4%	6.5%	11.6%	6.4%	12.8%	3.4%	3.4%	8.3%	5.4%	—
陽性反応適中度	5.4%	3.3%	2.7%	3.4%	4.8%	1.2%	8.8%	2.0%	5.4%	1.3% 以上
がん発見率	0.07%	0.04%	0.05%	0.04%	0.05%	0.02%	0.08%	0.04%	0.07%	0.03% 以上

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H28～H30年度地域保健・健康増進事業報告)

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

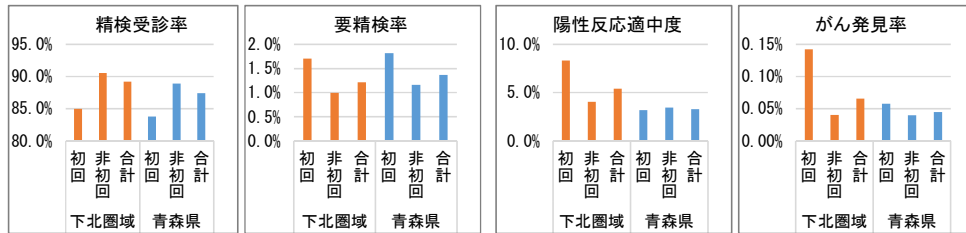
2. 肺がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<肺がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成27～29年度 男女計] >

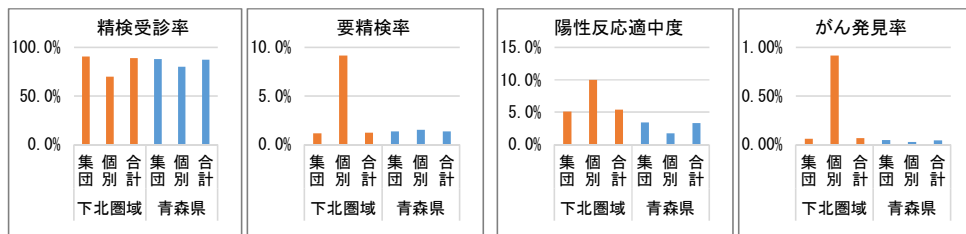
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～74歳
下北圏域 要精検者数	7	3	8	10	27	47	46	23	25	196	148
下北圏域 精検受診者数	6	3	6	5	26	42	44	22	21	175	132
下北圏域 精検受診率	85.7%	100.0%	75.0%	50.0%	96.3%	89.4%	95.7%	95.7%	84.0%	89.3%	89.2%
青森県 要精検者数	70	70	124	224	460	961	866	664	628	4,067	2,775
青森県 精検受診者数	63	56	106	181	406	846	767	598	558	3,581	2,425
青森県 精検受診率	90.0%	80.0%	85.5%	80.8%	88.3%	88.0%	88.6%	90.1%	88.9%	88.1%	87.4%

<肺がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 初回	3,515	60	51	5	1.7%	85.0%	8.3%	0.14%
下北圏域 非初回	7,412	74	67	3	1.0%	90.5%	4.1%	0.04%
下北圏域 合計	12,174	148	132	8	1.2%	89.2%	5.4%	0.07%
青森県 初回	53,608	975	817	31	1.8%	83.8%	3.2%	0.06%
青森県 非初回	139,792	1,620	1,441	56	1.2%	89.0%	3.5%	0.04%
青森県 合計	202,771	2,775	2,425	91	1.4%	87.4%	3.3%	0.04%

<肺がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 集団検診	12,065	138	125	7	1.1%	90.6%	5.1%	0.06%
下北圏域 個別検診	109	10	7	1	9.2%	70.0%	10.0%	0.92%
下北圏域 合計	12,174	148	132	8	1.2%	89.2%	5.4%	0.07%
青森県 集団検診	187,623	2,545	2,241	87	1.4%	88.1%	3.4%	0.05%
青森県 個別検診	15,148	230	184	4	1.5%	80.0%	1.7%	0.03%
青森県 合計	202,771	2,775	2,425	91	1.4%	87.4%	3.3%	0.04%

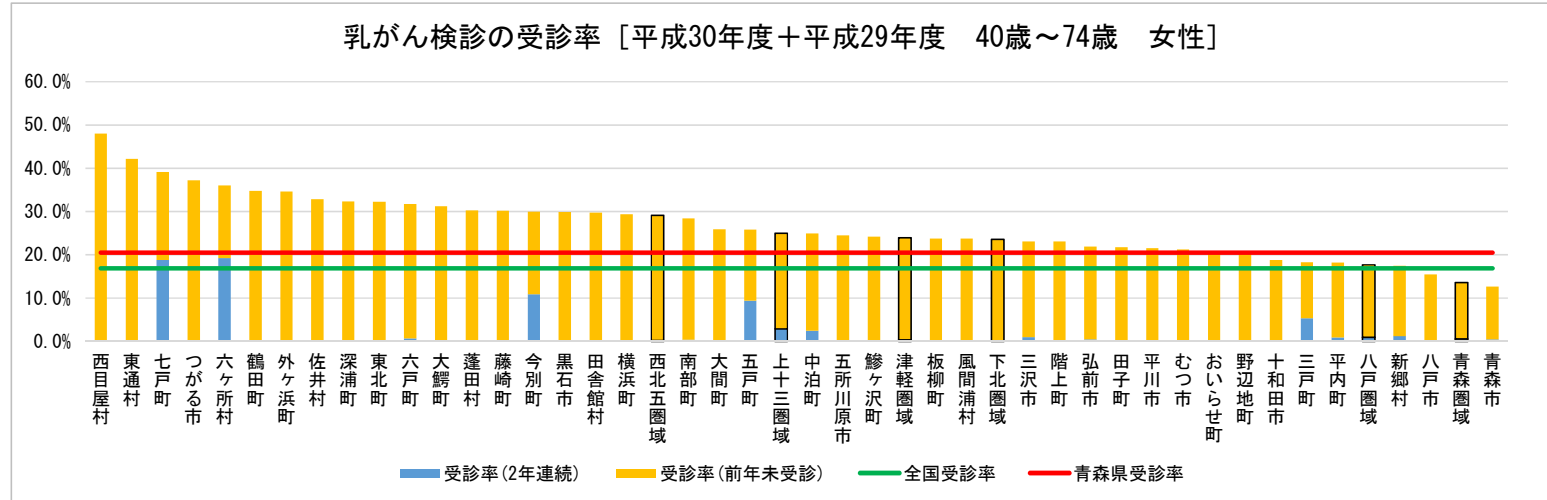
個別事項「プロセス指標」

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和3年2月1日付け青が生第365号通知]

平成30年度 乳がん検診プロセス指標－受診率－

自治体名	下北圏域
------	------

1. 乳がん検診の受診率



指標の意義・一般的な対策

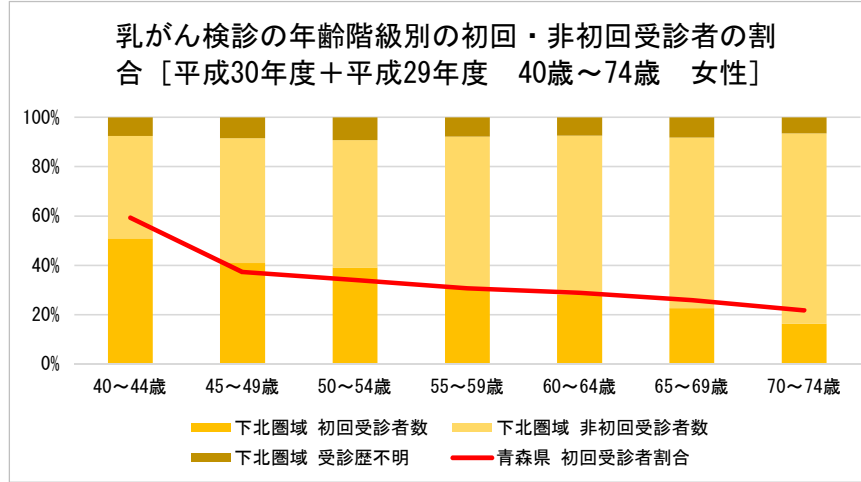
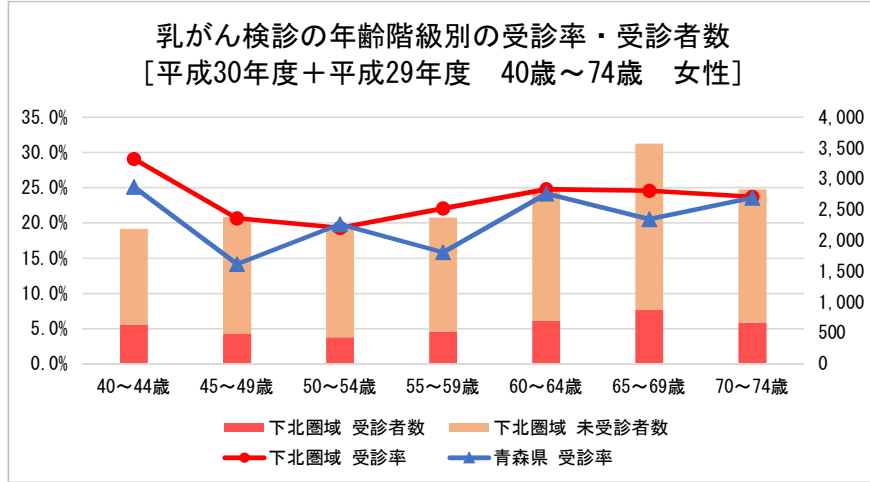
- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。受診間隔（2年に1回）を遵守し、精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

<乳がん検診の受診率 [平成30年度+平成29年度 40歳～74歳 女性]>

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	16.9%	20.5%	13.6%	24.0%	17.7%	29.1%	25.0%	23.5%	12.7%	21.9%	15.5%	29.9%	24.6%	18.8%	23.1%	21.3%	37.2%	21.6%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	40位	29位	39位	16位	23位	35位	27位	32位	4位	31位
受診者数	5,091,296	68,152	11,071	17,740	14,478	9,902	10,633	4,328	9,594	9,872	9,090	2,618	3,628	3,022	2,108	3,137	3,099	1,727
対象者数	30,191,480	332,195	81,344	74,041	81,838	33,999	42,594	18,379	75,528	45,064	58,680	8,764	14,777	16,056	9,143	14,727	8,322	8,011
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	18.2%	30.0%	30.3%	34.6%	24.2%	32.3%	48.0%	30.2%	31.2%	29.8%	23.8%	34.7%	24.9%	20.5%	39.2%	31.7%	29.4%	32.3%
順位	37位	15位	13位	7位	24位	9位	1位	14位	12位	17位	25位	6位	22位	34位	3位	11位	18位	10位
受診者数	527	195	220	535	626	688	142	1,138	794	585	864	1,130	731	710	1,482	830	310	1,383
対象者数	2,892	651	727	1,546	2,590	2,128	296	3,770	2,542	1,965	3,629	3,252	2,930	3,468	3,785	2,616	1,056	4,283
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村	[受診率の計算方法について]					
受診率	36.0%	20.7%	25.9%	42.2%	23.8%	32.8%	18.3%	25.8%	21.7%	28.4%	23.1%	17.5%	(H30年度の受診者数－H30年度の2年連続受診者数＋H29年度の受診者数)÷H30年度の対象者数＝受診率					
順位	5位	33位	20位	2位	26位	8位	36位	21位	30位	19位	28位	38位	※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。					
受診者数	788	1,282	337	578	120	156	464	1,121	296	1,324	803	98						
対象者数	2,187	6,203	1,302	1,370	505	475	2,540	4,343	1,363	4,665	3,483	561						

(出典：H30年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数(分母)は対象年齢の全住民で、受診者数(分子)は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

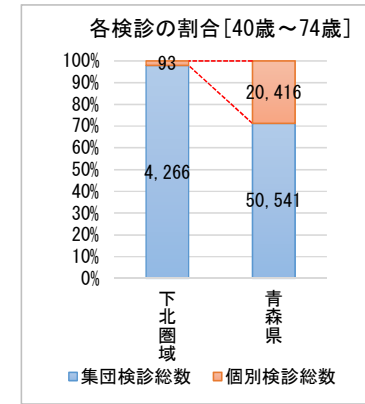
2. 乳がん検診の受診者の状況



<乳がん検診の年齢階級別の受診者数・受診率 [平成30年度+平成29年度 女性]>

区分		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
下北圏域	対象者数	2,189	2,388	2,227	2,375	2,796	3,574	2,830			18,379	15,549	18,379
下北圏域	受診者数	637	494	430	524	693	879	671	333	145	4,806	3,657	4,328
下北圏域	初回受診者数	324	202	168	162	195	199	109	58	24	1,441	1,250	1,359
下北圏域	非初回受診者数	265	250	222	321	447	608	519	257	105	2,994	2,113	2,632
下北圏域	受診歴不明	48	42	40	41	51	72	43	18	16	371	294	337
下北圏域	受診率	29.1%	20.7%	19.3%	22.1%	24.8%	24.6%	23.7%				23.5%	23.5%
青森県	対象者数	41,224	44,387	43,223	45,703	49,669	58,869	49,120			332,195	283,075	332,195
青森県	受診者数	10,366	6,291	8,566	7,244	12,004	12,098	11,583	4,966	2,623	75,741	56,569	68,152
青森県	初回受診者数	6,145	2,344	2,914	2,219	3,469	3,131	2,517	1,024	661	24,424	20,222	22,739
青森県	非初回受診者数	3,867	3,716	5,336	4,749	8,116	8,556	8,661	3,788	1,858	48,647	34,340	43,001
青森県	受診歴不明	354	231	316	276	419	411	405	154	104	2,670	2,007	2,412
青森県	受診率	25.1%	14.2%	19.8%	15.9%	24.2%	20.6%	23.6%				20.0%	20.5%

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者
 ※非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者



※受診者数はH30年度とH29年度の受診者数の合計からH30年度の2年連続受診者数を除いた人数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

個別事項「プロセス指標」 (別紙7とは対象年度が異なる点に留意)

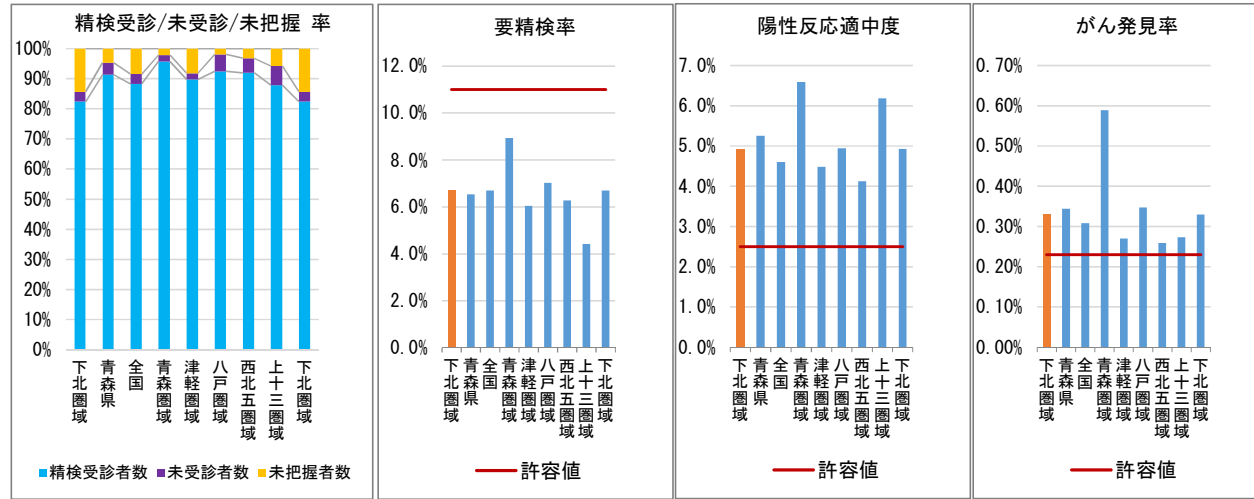
別紙7_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和3年2月1日付け青が生第365号通知]

平成27～29年度 乳がん検診プロセス指標 - 受診率を除く -

自治体名	下北圏域
------	------

1. 乳がん検診のプロセス指標 (受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<乳がん検診のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 女性]>

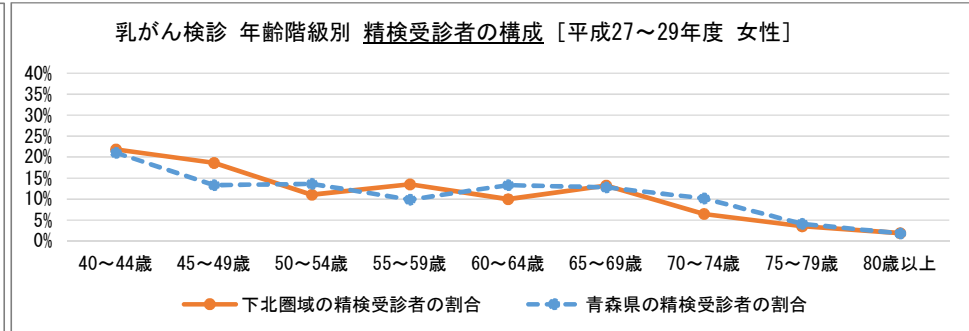
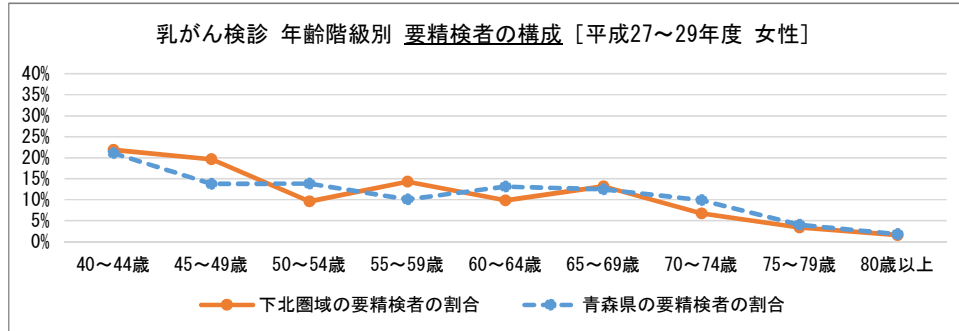
区分	下北圏域	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	6,366	110,568	8,753,848	18,683	26,594	24,444	15,469	19,012	6,366	—
要精検者数	426	7,232	586,674	1,669	1,608	1,719	970	840	426	—
未把握者数	61	339	49,554	36	131	32	31	48	61	—
未受診者数	14	280	19,195	35	33	97	47	54	14	—
精検受診者数	351	6,613	517,925	1,598	1,444	1,590	892	738	351	—
がんであった者	21	380	27,011	110	72	85	40	52	21	—
要精検率	6.7%	6.5%	6.7%	8.9%	6.0%	7.0%	6.3%	4.4%	6.7%	11.0% 以下
精検受診率	82.4%	91.4%	88.3%	95.7%	89.8%	92.5%	92.0%	87.9%	82.4%	—
未受診率	3.3%	3.9%	3.3%	2.1%	2.1%	5.6%	4.8%	6.4%	3.3%	—
未把握率	14.3%	4.7%	8.4%	2.2%	8.1%	1.9%	3.2%	5.7%	14.3%	—
陽性反応適中度	4.9%	5.3%	4.6%	6.6%	4.5%	4.9%	4.1%	6.2%	4.9%	2.5% 以上
がん発見率	0.33%	0.34%	0.31%	0.59%	0.27%	0.35%	0.26%	0.27%	0.33%	0.23% 以上

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診動員に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H28～H30年度地域保健・健康増進事業報告)

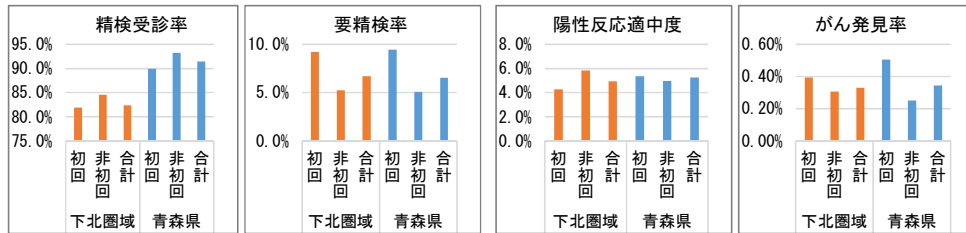
2. 乳がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<乳がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成27～29年度 女性] >

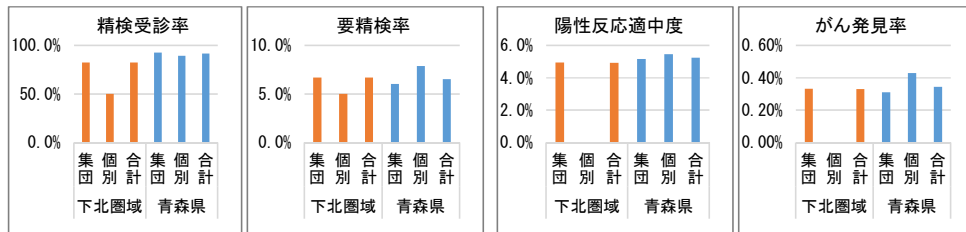
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～74歳
下北圏域 要精検者数	98	88	43	64	44	59	30	15	7	448	426
下北圏域 精検受診者数	81	69	41	50	37	49	24	13	7	371	351
下北圏域 精検受診率	82.7%	78.4%	95.3%	78.1%	84.1%	83.1%	80.0%	86.7%	100.0%	82.8%	82.4%
青森県 要精検者数	1,618	1,056	1,062	772	1,008	956	760	309	136	7,677	7,232
青森県 精検受診者数	1,479	935	957	693	937	900	712	288	128	7,029	6,613
青森県 精検受診率	91.4%	88.5%	90.1%	89.8%	93.0%	94.1%	93.7%	93.2%	94.1%	91.6%	91.4%

<乳がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 女性] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 初回	2,279	210	172	9	9.2%	81.9%	4.3%	0.39%
下北圏域 非初回	3,589	188	159	11	5.2%	84.6%	5.9%	0.31%
下北圏域 合計	6,366	426	351	21	6.7%	82.4%	4.9%	0.33%
青森県 初回	38,146	3,606	3,242	193	9.5%	89.9%	5.4%	0.51%
青森県 非初回	68,212	3,454	3,220	172	5.1%	93.2%	5.0%	0.25%
青森県 合計	110,568	7,232	6,613	380	6.5%	91.4%	5.3%	0.34%

<乳がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 女性] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 集団検診	6,326	424	350	21	6.7%	82.5%	5.0%	0.33%
下北圏域 個別検診	40	2	1	0	5.0%	50.0%	0.0%	0.00%
下北圏域 合計	6,366	426	351	21	6.7%	82.4%	4.9%	0.33%
青森県 集団検診	79,888	4,815	4,455	248	6.0%	92.5%	5.2%	0.31%
青森県 個別検診	30,680	2,417	2,158	132	7.9%	89.3%	5.5%	0.43%
青森県 合計	110,568	7,232	6,613	380	6.5%	91.4%	5.3%	0.34%

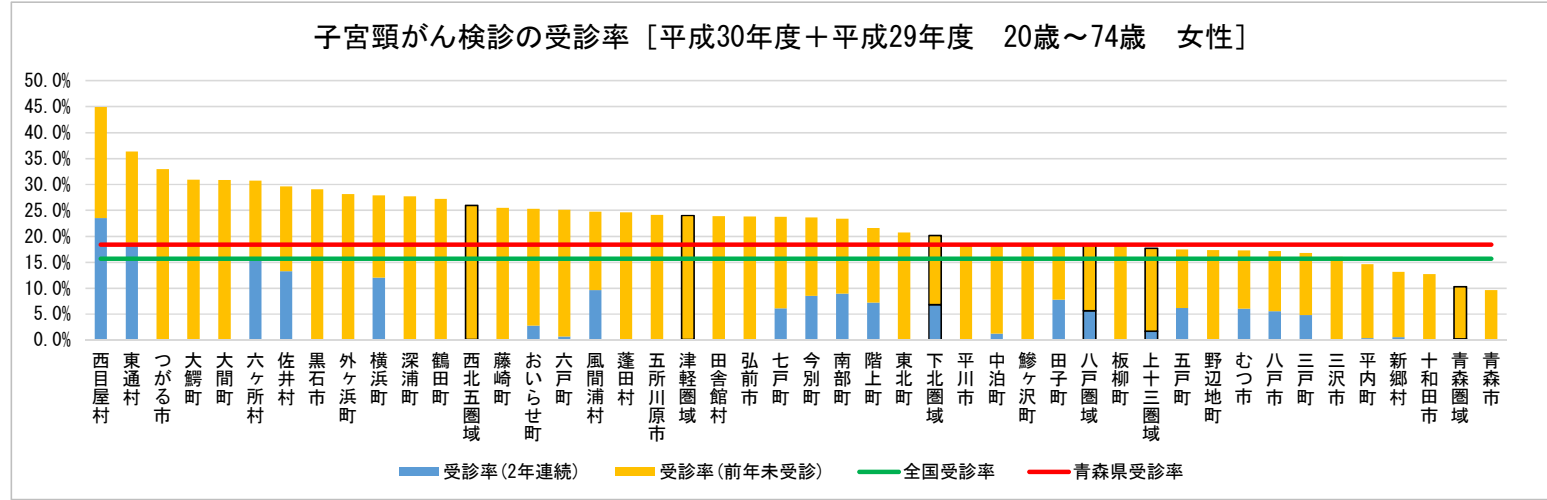
個別事項「プロセス指標」

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和3年2月1日付け青が生第365号通知]

平成30年度 子宮頸がん検診プロセス指標 - 受診率 -

自治体名

1. 子宮頸がん検診の受診率



指標の意義・一般的な対策

- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。受診間隔（2年に1回）を遵守し、精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

<子宮頸がん検診の受診率 [平成30年度+平成29年度 20歳~74歳 女性] >

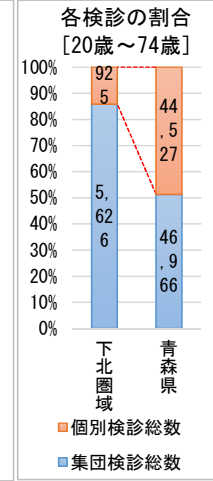
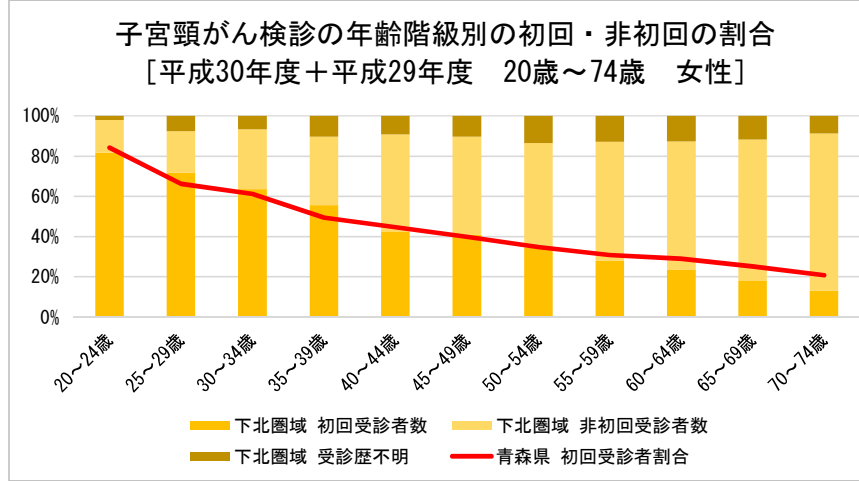
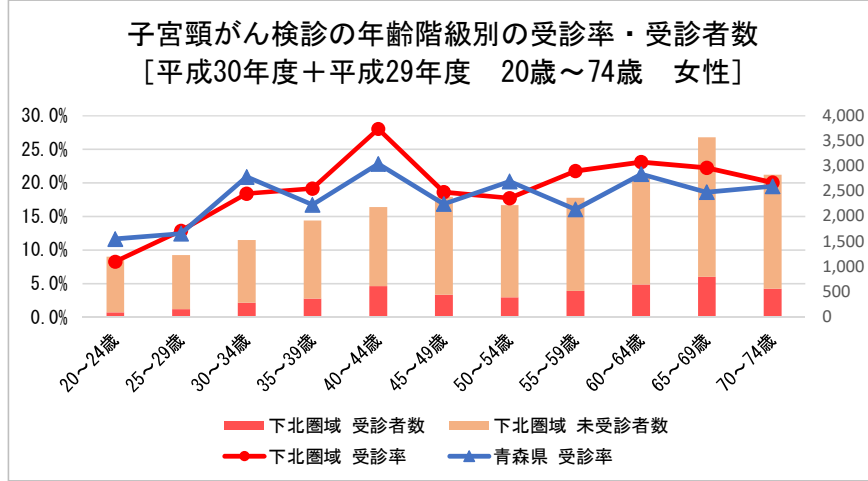
区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	15.7%	18.4%	10.3%	24.0%	18.3%	26.0%	17.7%	20.1%	9.6%	23.8%	17.2%	29.1%	24.2%	12.7%	16.1%	17.3%	32.9%	18.7%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	40位	20位	34位	8位	18位	39位	36位	33位	3位	26位
受診者数	6,883,739	82,123	11,319	24,093	20,315	11,358	10,150	4,888	9,847	14,718	13,779	3,422	4,665	2,712	2,148	3,377	3,576	2,001
対象者数	43,822,280	446,139	109,740	100,311	110,754	43,752	57,317	24,265	102,514	61,756	80,128	11,779	19,289	21,305	13,365	19,551	10,855	10,729
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	14.7%	23.6%	24.7%	28.2%	18.4%	27.7%	44.9%	25.5%	30.9%	23.9%	18.3%	27.3%	18.4%	17.4%	23.8%	25.2%	27.9%	20.8%
順位	37位	22位	17位	9位	28位	11位	1位	13位	4位	19位	30位	12位	27位	32位	21位	15位	10位	25位
受診者数	539	180	229	524	590	714	172	1,308	982	619	871	1,142	671	689	1,169	897	389	1,168
対象者数	3,675	762	929	1,860	3,203	2,577	383	5,130	3,175	2,587	4,772	4,189	3,639	3,971	4,915	3,564	1,394	5,625
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	30.8%	25.3%	30.8%	36.4%	24.8%	29.6%	16.8%	17.4%	18.4%	23.4%	21.6%	13.2%						
順位	6位	14位	5位	2位	16位	7位	35位	31位	29位	23位	24位	38位						
受診者数	978	2,186	519	666	152	174	540	975	348	1,403	989	95						
対象者数	3,178	8,640	1,683	1,830	614	587	3,217	5,588	1,895	5,989	4,577	720						

[受診率の計算方法について]

$$\frac{(H30年度受診者数 - H30年度2年連続受診者数 + H29年度受診者数)}{H30年度対象者数} = \text{受診率}$$
 ※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。

(出典：H30年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数（分母）は対象年齢の全住民で、受診者数（分子）は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

2. 子宮頸がん検診の受診者の状況



< 子宮頸がん検診の年齢階級別の受診者数・受診率 [平成30年度+平成29年度 女性] >

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者、非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者

区分		20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	20～69歳	20～74歳
下北圏域	対象者数	1,198	1,234	1,533	1,921	2,189	2,388	2,227	2,375	2,796	3,574	2,830			24,265	21,435	24,265
下北圏域	受診者数	99	159	282	368	614	445	395	517	646	796	567	303	119	5,310	4,321	4,888
下北圏域	初回受診者数	81	114	179	205	259	182	137	145	153	143	75	37	23	1,733	1,598	1,673
下北圏域	非初回受診者数	16	33	84	125	298	217	205	305	411	560	442	244	77	3,017	2,254	2,696
下北圏域	受診歴不明	2	12	19	38	57	46	53	67	82	93	50	22	19	560	469	519
下北圏域	受診率	8.3%	12.9%	18.4%	19.2%	28.0%	18.6%	17.7%	21.8%	23.1%	22.3%	20.0%				20.2%	20.1%
青森県	対象者数	24,750	24,157	30,113	34,924	41,224	44,387	43,223	45,703	49,669	58,869	49,120			446,139	397,019	446,139
青森県	受診者数	2,885	3,010	6,296	5,848	9,422	7,474	8,748	7,327	10,578	10,962	9,573	4,543	2,271	88,937	72,550	82,123
青森県	初回受診者数	2,428	1,995	3,855	2,892	4,214	2,981	3,041	2,258	3,062	2,756	1,989	973	670	33,114	29,482	31,471
青森県	非初回受診者数	365	853	2,193	2,697	4,810	4,184	5,368	4,749	7,075	7,809	7,237	3,407	1,503	52,250	40,103	47,340
青森県	受診歴不明	92	162	248	259	398	309	320	441	441	397	347	163	98	3,573	2,965	3,312
青森県	受診率	11.7%	12.5%	20.9%	16.7%	22.9%	16.8%	20.2%	16.0%	21.3%	18.6%	19.5%				18.3%	18.4%

※受診者数はH30年度とH29年度の受診者数の合計からH30年度の2年連続受診者数を除いた人数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

個別事項「プロセス指標」 (別紙8とは対象年度が異なる点に留意)

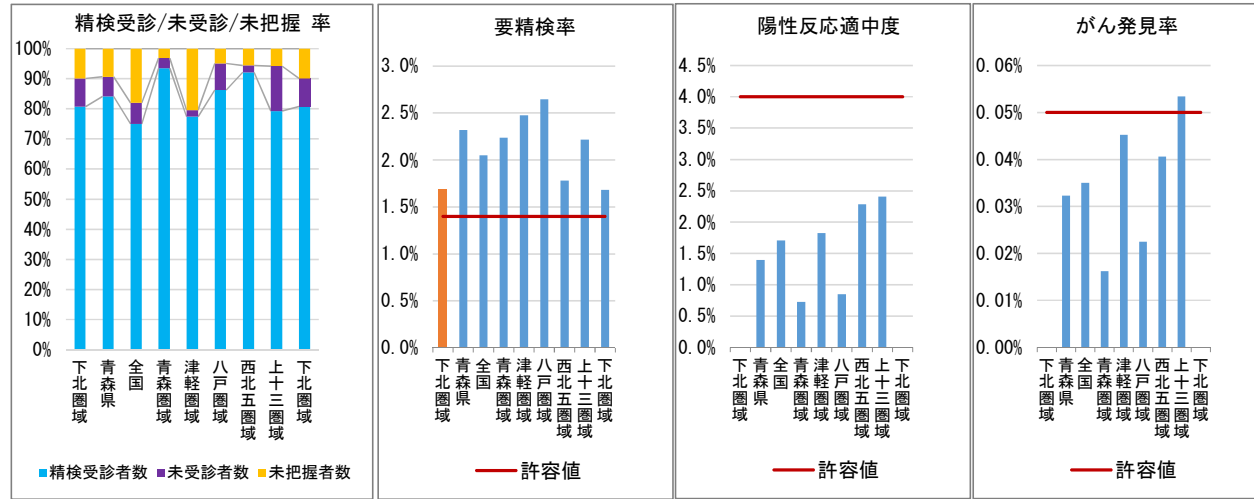
別紙8_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和3年2月1日付け青が生第365号通知]

平成27～29年度 子宮頸がん検診プロセス指標 - 受診率を除く -

自治体名	下北圏域
------	------

1. 子宮頸がん検診のプロセス指標 (受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<子宮頸がん検診のプロセス指標 [平成27～29年度 20歳～74歳 女性]>

区分	下北圏域	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	9,570	139,420	12,390,330	18,498	35,393	39,986	17,244	18,729	9,570	—
要精検者数	161	3,232	254,011	414	876	1,059	307	415	161	—
未把握者数	16	301	45,798	13	179	52	17	24	16	—
未受診者数	15	211	17,683	14	19	94	7	62	15	—
精検受診者数	130	2,720	190,530	387	678	913	283	329	130	—
がんであった者	0	45	4,339	3	16	9	7	10	0	—
要精検率	1.7%	2.3%	2.1%	2.2%	2.5%	2.6%	1.8%	2.2%	1.7%	1.4% 以下
精検受診率	80.7%	84.2%	75.0%	93.5%	77.4%	86.2%	92.2%	79.3%	80.7%	—
未受診率	9.3%	6.5%	7.0%	3.4%	2.2%	8.9%	2.3%	14.9%	9.3%	—
未把握率	9.9%	9.3%	18.0%	3.1%	20.4%	4.9%	5.5%	5.8%	9.9%	—
陽性反応適中度	0.0%	1.4%	1.7%	0.7%	1.8%	0.8%	2.3%	2.4%	0.0%	4.0% 以上
がん発見率	0.00%	0.03%	0.04%	0.02%	0.05%	0.02%	0.04%	0.05%	0.00%	0.05% 以上

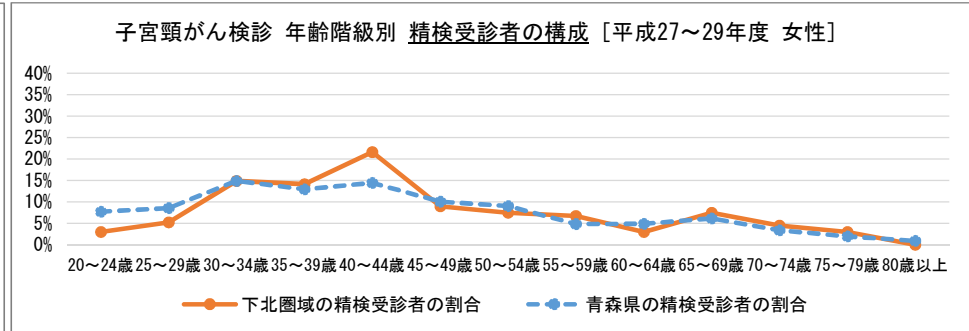
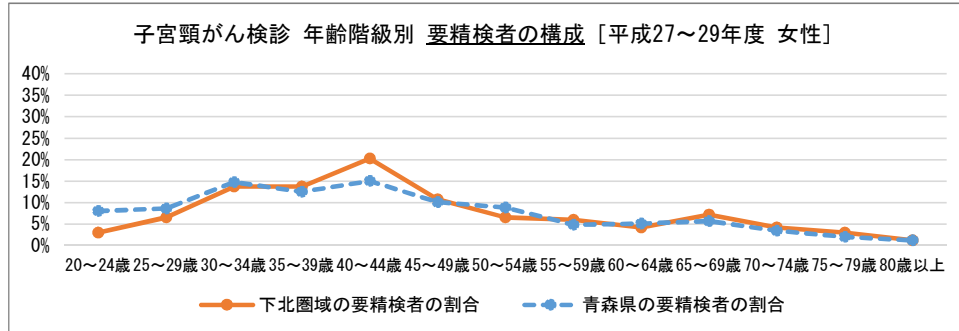
[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H28～H30年度地域保健・健康増進事業報告)

指標の意義・一般的な対策	
<p>精検受診率 未受診率 未把握率</p>	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
<p>要精検率</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
<p>陽性反応適中度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
<p>がん発見率</p>	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

自治体名 下北圏域

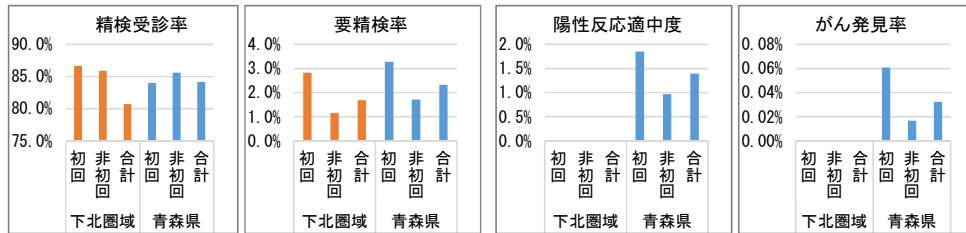
2. 子宮頸がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<子宮頸がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成27～29年度 女性] >

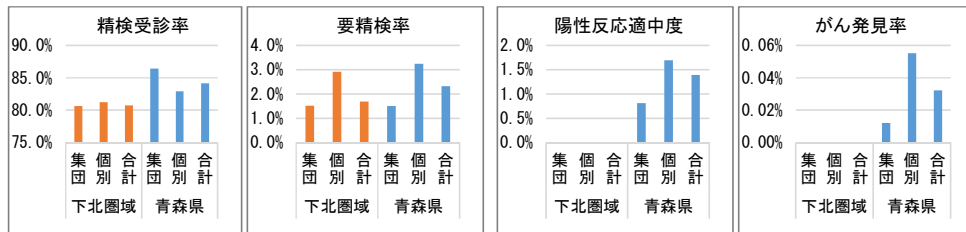
区分	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	20～74歳
下北圏域 要精検者数	5	11	23	23	34	18	11	10	7	12	7	5	2	168	161
下北圏域 精検受診者数	4	7	20	19	29	12	10	9	4	10	6	4	0	134	130
下北圏域 精検受診率	80.0%	63.6%	87.0%	82.6%	85.3%	66.7%	90.9%	90.0%	57.1%	83.3%	85.7%	80.0%	0.0%	79.8%	80.7%
青森県 要精検者数	268	287	493	417	501	336	294	161	171	189	115	66	39	3,337	3,232
青森県 精検受診者数	217	241	418	363	405	282	253	136	137	173	95	56	26	2,802	2,720
青森県 精検受診率	81.0%	84.0%	84.8%	87.1%	80.8%	83.9%	86.1%	84.5%	80.1%	91.5%	82.6%	84.8%	66.7%	84.0%	84.2%

<子宮頸がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成27～29年度 20歳～74歳 女性] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 初回	2,651	75	65	0	2.8%	86.7%	0.0%	0.00%
下北圏域 非初回	6,154	71	61	0	1.2%	85.9%	0.0%	0.00%
下北圏域 合計	9,570	161	130	0	1.7%	80.7%	0.0%	0.00%
青森県 初回	51,061	1,676	1,408	31	3.3%	84.0%	1.8%	0.06%
青森県 非初回	83,478	1,437	1,230	14	1.7%	85.6%	1.0%	0.02%
青森県 合計	139,420	3,232	2,720	45	2.3%	84.2%	1.4%	0.03%

<子宮頸がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成27～29年度 20歳～74歳 女性] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
下北圏域 集団検診	8,473	129	104	0	1.5%	80.6%	0.0%	0.00%
下北圏域 個別検診	1,097	32	26	0	2.9%	81.3%	0.0%	0.00%
下北圏域 合計	9,570	161	130	0	1.7%	80.7%	0.0%	0.00%
青森県 集団検診	74,188	1,114	963	9	1.5%	86.4%	0.8%	0.01%
青森県 個別検診	65,232	2,118	1,757	36	3.2%	83.0%	1.7%	0.06%
青森県 合計	139,420	3,232	2,720	45	2.3%	84.2%	1.4%	0.03%